



2019.9
No.459
初秋号
第71巻2号

9

わが子のあゆみ

スーパー昼休み

本校では、毎週水曜日は「スーパー昼休み」となっています。週に1日だけ掃除をなくして、給食後の13:05～13:45までの40分間が“超ロング休み時間”です。

天気がよく日は外遊びを原則として、ほとんどの子どもが外遊びをたっぷりと楽しめます。スタートした頃は子どもたちの過ごし方に戸惑いが見られましたが、今では元気いっぱい笑顔があふれる時間となっています。

「おおがきしりつひがししちうがこい」

大垣市立東小学校

●住所 〒503-0808
大垣市三塚町1180
●TEL 0584-78-2338
●児童数 498名



学校のたからもの① あいさつロード

「うさん おはよう」

「先生おはようございます」

校門に響く明るく元気なあいさつで一日がスタートします。先輩たちが名付けた『あいさつロード』。生活委員や六年生の有志が立つて、あいさつ運動をしています。その元気な声に負けないように、下学年の子も明るいあいさつを返します。今日も一日がんばろうというやる気が伝わってきます。

朝だけでなく、「いつでも どこでも だれにでも 何度でも」をめあてに時と場に応じたあいさつを心がけています。

学校のたからもの② 仲間とともに学び続ける姿

学校生活の中心は、授業です。その授業では、子どもたち自ら仲間とともに学び続ける姿を大切にしています。教師の指示を待つのではなく、課題を書いたら予想や考えをどんどんノートに書き、必要に応じて周りの仲間と



授業風景

交流します。全体交流では、発言者の考えを自分の考えと比べながら聞き、必ずハンドサインで反応します。このように、仲間と学び続ける授業を目指し、児童と職員が一丸となって取り組んでいます。

学校のたからもの③ 地域で学ぶ・地域と学ぶ・地域を学ぶ

子どもたちにとって、自分が住む地域を知り、ふるさとの自然、歴史、文化、産業等に親しむことは、豊かな人間性を育むとともに、社会の一員としての自覚を養い、ふるさとの宝を未来に伝えることにつながります。本校では「地

域で学ぶ・地域と学ぶ・地域を学ぶ」そんな『ふるさと学習』を大切にしています。生活科や社会科、総合的な学習の時間、ふるさと大垣科の中で、地域へ出て学習したり地域の方に授業に参加していたりして、地域のことを学ぶ機会を多く設けています。例えば、三年生の総合的な学習の時間では、日本の伝統文化を取り扱い、大垣まつりについて調べたり、校区にあるまつりの軸のお囃子について育成会の方から話を聞いて体験したりしています。また、地域講師の方から日本舞踊を学び、行事に参加して練習の成果を披露しています。そして、四年生になると社会科で、大垣まつりの軸行事を守り受け継いできた人々の願いを知り、自分たちができることを考えています。

また、授業だけではなく、四年生以上が取り組むクラブ活動の時間にも、昨年度から、十三のクラブすべてに地域の方に講師として指導にあたっていただいています。なかには、横笛や尺八など二十年以上前から指導に来てくださる講師の方もみえます。地域の方と学ぶ貴重な時間となっています。

学校のたからもの⑤ 広がるなかよしの輪

「なかよし」を合い言葉に、学級・学年・その他の学年となかよしの輪を広げています。学期に一度はペアの学年（一・六年生、二・四年生、三・五年生）と遊ぶ場を設けています。また、六年生が修学旅行に出かけるときに、一年生が晴れを願った掲示物を届けたり、五年生が宿泊研修に出かける時には、三年生から手作りのお守りをもったりする交流もあります。一年生は、校区の幼稚園やこども園の子たちと交流を行っています。玉ねぎスープをつくるパーティーに招待されたり、自分達がつくった秋のおもちやで一緒に遊んだりしています。



幼稚園との交流



校舎



あいさつロード



3年 大垣まつり 育成会の方から学ぶ



横笛クラブ



鼓笛 引き継ぎ



音楽朝会 1年生発表



十万石まつり 鼓笛パレード

学校のたからもの④ 全校にひびく歌声・代々引き継がれる鼓笛

今月の歌を設定して、毎日の朝の朝の会で練習をしています。そして毎月一回、朝の活動に位置付けられた、音楽朝会の中で全校で歌います。また、音楽朝会では、各学年の歌声の発表



学校の教育目標

めあてをもって進んでやりぬく子
考え作り出す ながよく助け合う 体をきたえる

「せきしりしたわりしちうがっしん」

関市立田原小学校

住所 〒501-3928
関市西田原1465番地
TEL 0575-22-3243
児童数 308名



校舎



あいさつボランティア



自慢の児童朝会



たわらっ子遊びでのひとコマ



見守りボランティア紹介の会



学校の教育目標

仲間と共に 進んで取り組み やりぬく子
かじく ややく たくまじく

学校のたからもの① ふんわり言葉・ふんわり行動

田原小学校の今年度の児童会スローガンは「ふんわりで笑顔いっぱい田原っ子」です。「ふんわり」とは、相手のことを考えた「ふんわり言葉」「ふんわり行動」のことです。このスローガンを達成するため、全校児童で二つの活動に取り組んでいます。



あいさつ運動
(関市のゆるキャラ「うかるくん」も参加して)

「二つ目は、「あいさつ活動」です。ふんわり言葉の一つであるあいさつを、さらに盛り上げようとあいさつボランティアに進んで参加しています。一人ひとりが進んで取り組むことで、「おはよう」「こんにちは」の明るい声が飛び交う学校になってきました。
二つ目は、「ふんわりみつけ」です。全校のよいこと見つけをし、昼の放送で紹介しています。「優しくしてくれてありがとう」「掃除を時間いっぱい頑張っているね」など、たくさん「ふんわり行動」を見つけていることができます。



あいさつ活動
(PTAや関市のゆるキャラ「はもみん」も参加して)

学校のたからもの② 児童朝会

本校はどの学年も児童会活動にとっても前向きに取り組んでいます。その秘訣は本校自慢の児童朝会にあります。各委員会が重点的に取り組みたいことを寸劇やイラストで発表しますが、その時の表現力が実に豊かです。「ねえねえ、たわらっコ。今日の話す人のめあてはな〜なに？」など、本校のマスコットキャラクター「たわらっコ」・「たわらん」に扮した児童が集会のめあてや振り返りを話し、各委員会の五六年生が気持ちのこもった熱い語りや演技をします。そして、最後には要点を確認する「おさらいクイズ」です。もちろんみんな全問正解です。「五・六年生は、大きな声で表現力豊かに発表する。」という伝統と憧れ、「児童会活動はわくわくする。」という意欲が田原小学校には息づいています。

学校のたからもの③ たわらっ子遊び

パンダ、ハムスター、フラミンゴ、コアラ…かわいい動物たちの絵と名前の入ったプラカードに子どもたちがにこにこ楽しそうに集合します。
田原小学校の縦割り班活動「たわらっ子遊び」が始まります。
これまでに縦割り活動を経験したことのない六年生が、手探りで企画・運営することからスタートしたこの活動も、今年度で三年目を迎えました。仲間のためにがんばる高学年の姿に下学年の子どもが憧れと感謝の気持ち



感謝の会

をもち、学校にふんわりとした交流が生まれています。

学校のたからもの④ 地域とともに

田原小学校の子どもが安全に登下校できるようにと、地域の方が「田原子ども見守りボランティア」として、雨の日も風の日も毎日見守ってくださっています。このボランティアには二〇〇名を超える方が登録され、「ながら見守り」として支援していただいています。
毎年四月の初旬には「見守りボランティア紹介の会」で、今年もよろしくお願ひしますという気持ちを全校で伝えるとともに、児童の代表者が自分たちでも安全に気をつけて登下校することを宣言します。そして、二月の下旬にある「見守りボランティア感謝の会」では、高学年の代表者やPTAの方から感謝状や手紙などを渡し、PTA会長や児童会運営委員長からの話と全校合唱により感謝の気持ちを伝える会を行っています。

「ほしまし」のふくむ「まが」の「ま」

羽島市立福寿小学校

住所 〒501-6254
羽島市福寿町本郷1096番地1
TEL 058-391-2382
児童数 431名



〈沿革・地域の自然や風土〉

本校は、明治六年に「正名学校」として開校され、昭和二十九年に「羽島市立福寿小学校」となりました。校区は長良川左岸に接し、新幹線岐阜羽島駅や市民会館等の公共施設が存在します。岐阜県重要無形民俗文化財「平方勢獅子」をはじめ地域で伝統文化が大切に継承されています。また、「コミュニティセンター」を中心とした地域行事が活発で児童が参加したり交流したりする機会が多くあります。近年、宅地開発がすすみ児童数が毎年二十名ほど増加しています。



校舎



（鼓笛活動）
5・6年生が、運動会で今までの練習の成果を披露しました。



学校の教育目標

豊かな心をもち

たくましく実践する子

「考える子・思いやる子・きたえる子」

学校のたからもの①

自信と誇りを育む伝統的な活動

福寿小学校には、四半世紀以上にわたって大切に引き継がれてきた伝統的な活動が二つあります。共に子どもたちが憧れをもち、自主的に粘り強く練習に取り組み、自信と誇りを感じています。また、保護者や地域の方からも期待され、愛されている活動です。

① 鼓笛活動

本校の鼓笛活動は、今年度五十五年目を迎えます。五年生は鍵盤ハーモニカ、六年生は打楽器と金管楽器を担当しています。九月に実施される「運動会」での発表に向けて、六年生のリーダーを中心に正確な音づくりや動きづくりを目指し、練習に取り組めます。時には、休み時間も利用して自主的に練習する姿も見られます。

運動会が終わると、地域の行事「町民運動会」や「羽島駅前フェスティバル」に参加します。学校での取組を地域の方に見てもらえる機会をいただいています。

十一月に行われる「福寿唱」で最後の鼓笛発表が終わると、六年生は五年生に引き継



（鼓笛活動）
6年生を送る会で5年生が引継いだ鼓笛を披露しました。

学校のたからもの②

地域から学ぶ

地域の方が講師となり、コミュニティ・スクールティーチャーとして、クラブ活動や総合的な学習の時間に教えていただいています。クラブ活動では、昔遊び・茶華道、総合的な学習の時間では、岐阜県重要無形民俗文化財「平方勢獅子」の学習や、車椅子体験、米づくりや蓮根の収穫体験などがあります。

これらの活動を通じて、地域ふるさとの伝統や文化を学び、ふるさに愛着をもち、お世話になった人への感謝の気持ちを育んでいきます。



（福寿唱）
全校の歌声を地域の方に聴いていただきました。「ふるさと」を全員で歌いました。



（歌声づくり）
歌声集会では、学年で練習した成果を全校の前で発表しました。



（地域から学ぶ）
「平方勢獅子」について、保存会の方に教えていただきました。

が五十五年という伝統を創り上げています。毎年十一月に不二羽島文化センターで全校合唱祭の「福寿唱」を行います。今年度で二十八周年を迎えます。五月から「福寿唱」の発表に向けて歌声づくりが本格的に始まります。歌声委員を中心に「指揮者に集中すること」、「口を指三本分大きく開けること」を大切にして練習に取り組めます。また、年間計画に基づいて月に一、二回程度歌声集会を開き、学年で練習を積み重ねて成果を全校の前で発表します。「福寿唱」の当日は、歌声委員が司会や運営を行います。地域の方も招待し、学年ごとに今まで取り組んできた合唱や合奏を発表します。子どもたちの一生懸命に歌う姿勢や美しい歌声に、感動される方が多くいらっしゃいます。プログラムの最後に地域の方と一緒に大合唱する「ふるさと」は、世代を超え、ふるさと「福寿」を思い、心にしみる歌声が会場に響きわたります。



（コミュニティ・スクールティーチャーから学ぶ）
茶華道クラブでは、お花の生け方を教えていただきました。



（コミュニティ・スクールティーチャーから学ぶ）
苗の植え方を教えていただき、田植えをしました。

わが家の宝物

わが家の宝物は何だろう？今回の原稿依頼が来てから色々と考えました。家、サッカーボール、サボテンなどを考えても子ども達がそこにはいません。やはり、わが家の宝物は子ども達です。

わが家には九歳の長男、六歳の長女、二歳の次男がいます。いつも一緒に遊んで、喧嘩してにぎやかです。長男は玄関掃除、長女は新聞取り、次男はオムツを捨てるのが仕事です。最近料理も手伝ってくれます。玉ねぎは目に染みる様です。(笑) いつまでも仲良く元気に過ごして欲しいです。二十歳になったらお酒と一緒に飲みたいです。



リレーエッセイ 7

垂井町立北中学校

PTA会長

渡辺 昇



檜の木と共に

私には十五歳になる長男と、十二歳の次男がいます。子育てを始めて早十五年。長かったようでもあり、短かったようでもあります。振り返れば、私にとって子育ては、植物を育てることに似ている気がします。手のひらの中にある小さな種を、「大きくなれ、大きくなれ。」と愛情をかけて世話をし、どんな花が咲くのか、どんな実がなるのかワクワクしながら成長の様子を見守っています、あの感じです。

自営業を営む我が家。私は父から仕事を受け継ぎました。長男もどこかでそうしなければ、と思っていたのかもしれませんが。夏休みのある日、息子の友達とBBQをしながら互いに将来の話をしている様子を見ました。

皆が生きて語りながら、息子が言葉を濁しながら話しているのが気になりました。以前の私なら、「当然長男なのだから、仕事を継ぐべき」と思っていたかもしれませんが。

しかし、PTA活動を通して学ぶうち、子どもの気持ちを受け入れ、個性を伸ばすことの大切さに気づきました。

今高校一年生となった長男は、新たな夢に向かって進み始めています。長男と語り、夢を応援することを告げたことが嬉しかったのか、卒業式前日に、感謝の手紙をくれました。それは、きっと私の一生の宝物となるでしょう。

子育ては、一人ではがむしゃらに頑張るものではありません。私が至らないところは家族が補ってくれます。また、PTA活動を通じて知り合った皆様にも教えていただきました。

今、一つ目の小さな種は若木となり枝を伸ばしつつあります。二つ目の種は、一体どんな花や実をつけてくれるのでしょうか。願わくば、二人とも強い風に負けぬ檜の木のように立派に育ってほしいと願うのは親の欲でしょうか。どんな夢でもいい、いつか自分でしっかりと根を張り、枝葉を広げられるようになるまで、私も学び続けたいと思います。

次回は... 徹明さくら小学校 横井 由美子さん



表紙 岐阜市立鷺山小学校

1 学校のたからもの

大垣市立東小学校
関市立田原小学校
羽島市立福寿小学校
八百津町立八百津中学校

9 わが家の宝物 森井 恵三

10 リレーエッセイ⑦ 渡辺 昇

11 特集 第四十回岐阜県PTA連合会 定期大会
記念講演

「こころ元氣な大人が、子どもの未来を築く！
『豊かな心を育むコミュニケーション』前編
こころ元氣研究所 所長 鎌田 敏さん

17 家庭教育応援団！③⑦

岐阜県環境生活部環境生活政策課

19 「多様性尊重の教育」⑫
みんな、いっしょに 安田 和夫

21 保健室ノート 渡邊 千里

23 私の先生③⑦ 熊谷 玉緒

25 子育て半生記 井口 雅史

27 楽しい読み聞かせ⑥

多治見市立精華小学校PTA

29 親の背中 田中 博之・沢田 和秀

31 私が出会った1冊の本「続42」

小屋敷 博・桑田 香織

33 話そう！語ろう！わが家の約束

松井 華織・渡部 明美

34 親子ではてな

35 子の思い 川上 琴巴・今井 彩世・本田 真紘

親の願い 今津 公子・鈴木 永吾

教育の窓 中谷 基臣・小島 孝則

41 先生！ありがとう！

保護者から先生へ贈る感謝の四〇〇字メッセージ

42 お試しクッキング 岐阜県学校栄養士会

43 ふるさとの伝承

関市立南ヶ丘小学校

45 きらり！キッズ！

笠松町立下羽栗小学校

47 夢中！熱中！我らが部活

美濃加茂市立西中学校

49 私たちのPTA

多治見市立養正小学校PTA

機関誌「わが子のあゆみ」

令和元年度 初秋号
第71巻2号 通巻459号

発行/令和元年9月1日 岐阜県PTA連合会

〒5000-8816 岐阜市菅原町3-13

岐阜県校長会館内

電話/058(500)2511

FAX/058(200)2510

Eメール/info@gpta.com

ホームページ/http://www.gpta.com

編集/岐阜県PTA連合会広報委員会

「わが子のあゆみ」編集部

印刷/サンメッセ株式会社

記念講演

「こころ元気な大人が、子どもの未来を築く！」前編

「豊かな心を育むコミュニケーション」前編

こころ元気研究所 所長

鎌田敏さん

講師紹介

昭和四十三年生まれ、大阪育ち。様々な職業に就き、企業人としての経験を生かし、平成十七年「こころ元気研究所」を設立。こころ元気配達人として講演活動を始める。

僕は今、岐阜市で暮らしてまして、岐阜を拠点に、北は北海道から南は沖縄まで講演・研修の旅をしています。そんな奴が岐阜にいるんやなっていうことだけでも覚えて帰っていただけたらうれしいなと思っております。

良い習慣は続ける

ちよつとさつそくなんですけど、二人一組のペアを作っていたいただきましてね、Aさん役とBさん役を決めていただけたらなと思います。Aさん役の方は、僕が今から、「ボンボン」と



いうようなテンポを出していきます。そのテンポに合わせて、じゃんけんの手をBさんに出していただく。そして、Bさんはですね、Aさんが出したじゃんけんのその手に対して、今日は、この時間帯だけは、必ず負けてください。よろしいでしょうか。行きますよ。「ボンボン…」はい、ありがとうございます。

Bさん役の方、何かこのへんつりそうになりませんか？もう訳わからんことになってくるんですよ。そりゃそう、じゃんけんってやつぱりね、物心ついた時からずーっとやり続けてきて、僕ら、勝ち癖が付いています。ですので、いざ負けると言われた時に、こんがらがってくるんですよ。でも、これも物の見方を変えらるとですね、

長年の習慣でそういう物が身に付いてるといふことはですね、いい習慣…例えば、挨拶や整理整頓、履物を揃えるなど、それぞれのご家庭や社会の中で大切な習慣ってあるうかと思えます。そういう良い習慣を、ずーっと続けていく、継続は力なりじゃないですけども、続けていくことで本物になるといのが、この「じゃんけん」から読み取れたりするのがまず一つです。

少し立ち止まって適切な対処（「走」と「歩」）

もう一つは、僕の「ボンボン」というテンポが邪魔やったんですね。あれがなければ、Bさんは必ず負けることができてたんです。絶対適切な対処ができるんですけど、「ボンボンボンボン」言われるから、「あっあっあっあっ」ってなっていくわけなんですよね。でも、どうでしょうか、家庭生活でも仕事でもそうですけれども、次から次へいろんなことがボンボンボンボンやってきたりする時にですね、その時、パッパッパッパッってこうやる時に、もしかしたら、こうした方が一番いい対処だったかもしれないけども、ちよつと間違った対処してたりとか、時には、もうちよつと冷静に考えたら、あんな言い方せんでも良かったのに、つい、こう相手を不快にさせてしまったら傷つけてしまうようなね、そういうコミュニケーションとってたりすることもあるかもしれません。

心は空気感染する・明るく元気な空気づくり

例えばですね、車に乗って走っては気付かないものも、歩いてると…、歩くって漢字は、よー見たら「少し立ち止まる」って書くじゃないですか。良い漢字やなって思うんですけど、歩いてるからこそ、「あっ、こんな所にきれいな花が咲いてるな」と…。ばたばたばたばたしている日常があるからこそ、少し立ち止まること、がやっぱりすごく大切になって、そんなふうな思っています。

例えば、インフルエンザですとかね、あれ、接触感染、飛沫感染です。或いは、今年の冬でしたら、麻疹なんていうのが、大阪とか愛知県とかでけっこう流行りましたよね。あれは空気感染なんですよね。感染力が強い。で、僕ら生身なんで、感染するわけなんですけども、何も感染するのは、体だけちゃうなと思うんですね。どうでしょうか、皆さん、僕らの心だって、やる気・元気とか、気分ですとかね、心の状態だって、その場の空気の良い意味でも、悪い意味でも、空気感染って言いましょうか、影響を受けることってありませんか？人がそこにいると必ずその場の空気ができ上りますもんね。家庭の空気、学校やったら、教室や職員室の空気とか、職場の空気やとかね。人は誰しも、ちいちゃなお子さんからおじいちゃん、おばあちゃんまで、心に

とって嫌な空気は誰も求めていないやろなって思うんですね。人間の本質的にですね、心にとって何かいい空気求めてるんやろなって思うんですよ。じゃ、その空気って誰が作ってるのかな？っていうと、そこに居る一人ひとりの小さなことの積み重ねやろなと思うわけです。

小さなこと、例えば仕事とかで、パソコンに向かっていたりすることがあるんですよ。そんな時、「おはよう」と言われた時、パソコンを見ながら、「あっ、おはよう」って言ってたりするんですよ。或いは、小さな娘さんが電車の中で、「ねえ、ママ、ママ」って言うてる時、スマホでもいじくりながら、「どないしたん？」と、一生懸命こうやって触っているわけなんです。そういう時ですね、声掛けた方としては、「寂しいかな」っていうところあると思うんですよ。別に、朝からお互い見つめ合ってね、「おはよう」って言うてる必要はないんですけど、首をちよつと回すだけじゃないですか、目線をちよつとこう合わすだけです。ちよつとした行動です。それだけでも二人の心の距離ですとか、空気って変わってくるなって思うんですね。

ちよつとね、もうすぐ全国は、安全週間なんというのがありますね、それでよく、物流とか建設会社とかなんかでは、KYなんて言うんですよ。これ、危険を予知するって言います。みんな事故したらあかんからって。でも、世間一般的には、KY言うたら、空気が読めないな

なんて言いますよね。僕はですね、もうちよつとポジティブに捉えて、「心のKY活動」なんて言うてるわけです。心にとって空気を良くしている。そのために何ができるかなって考え、明日からのアクションにつなげていくというのは、非常に大切なことだと思っています。

双方向のコミュニケーション

僕が皆さんに今から、あることを申し上げます。それを聞いたまま、お手元の僕のレジュメでもどこでもいいです、空いている所に描いていただけたらと思うんです、よろしいでしょうか。「まるのうえにせん」を描いてみてください。「まるのうえにせん」を描いてみてくださいますけど、同じような絵になつてる方もあれば、何か微妙に違うな…とかね。僕が描いてほしかったのは、これなんです、果樹園のようなマークです。僕と同じような絵になつたという方いらっしゃいますでしょうか。結構これ少ないんです。これもありましたね、何人か。どちらかというと若い方に多いかなと思ってるのが、「○」書いて「千」とか、「千丸」なんていう方いらっしゃいませんか？或いは、全国で三十数例くらいあるんですが、特に金融機関とか行くとたまにあるんですよ。「○」の上に「一〇〇〇」って

こう、一〇〇〇円玉みたいな、いや本当ですよ。他にもあるかと思うんですけども、皆さん正解というか、皆さんが受け止められた「まるのうえにせん」なんです。

じゃこの場合、何が起きているかというところ、僕が伝えたかったことが伝わっていないというコミュニケーションのエラーが起きているわけなんです。「伝える」と「伝わる」というのは違いますよね。こっちは伝えたつもりでも、「そんなん聞いてへんでー」とかって言って、「何言うてんの、ちゃんと昨日の晩から言うてたやないの」…みたいなね。我が家でもこんなんよーありますけども、こう言われていても、こういうふうに受け止めていたりとか、言った言わんとか、そのことで喧嘩になったりとかすることあるかもしれません。で、コミュニケーションってやっぱり難しいのは、コミュニケーションの決定権って誰にあるかというところ、相手にあるんですよ。相手がどう受け止めているかですよ。つまり、人間関係の誤解ですね。親子だってあるかもしれません、夫婦でも。今、何が良くなかったかというところ、「はい、まるのうえにせん」って、何の質問も受け付けず、双方向のやりとりをしてませんか、ギャップ、ズレってやっぱり出てくるんですね。人間関係の誤解も、もしかしたら一方通行のコミュニケーションからくるところがあるかもしれません。だから、昔の人はうまいこと言ったわけです。「腹割って話そ

「挨拶の教え」～お互いがお互いに歩み寄る～

いろんな朝の声掛け運動とかね、挨拶運動とかで、声を掛けられたりされている方もあるかもしれませんが。声を掛けるって大切です。けれども、もう一方で、双方向の関係性でいくと、声掛けだけじゃなくて、声の掛けられやすさ、つまり、子どもたちからとかね、報告されやすさとか、相談されやすさとか、声の掛けられやすさというの、同じように大切ちゃうかなと思うんです。ま、これ大人同士でもそうですけど、双方向の関係性ってすごく大切なことだと思っ

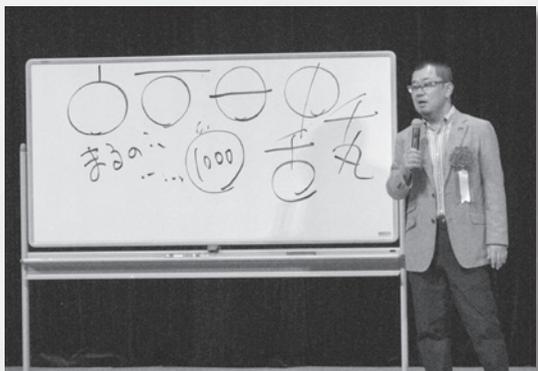


るんですね。

人間関係の出発点に「挨拶」ってあるじゃないですか。「漢字で書けるで」という方いらっしゃいます？僕もえらそうなこと言いましたけど、書けなかったんですよ。読めはしますし、何となくは分かっているんですけどね。徳島県にお邪魔したとき、あるおじいちゃんに教えてもらったんです。「覚え方があるで」って、せっかくだから覚えて帰ってください。「挨拶」、手偏なんです、手偏「ム」書いて、「矢」書いて、手偏に「くく」の「夕」って、こうやって覚えたらもう忘れへんでって言われて、僕も書けるようになったんですね。ただ、書ければいいかというところ、そういう訳でもなさそうでした。ね、そんな時に、そのおじいちゃんが僕に質問してきてたんです。皆さんどう答えられますかね。「ほな君な、挨拶ってどういう意味や？挨拶の意味言ってみ」ってね。「うーん」となるじゃないですか。僕はその時、挨拶は大切やって分かるんですけど、自分の言葉で表現できなかったんですよ。

朝から気持ちのいい挨拶が、ご家庭とか、地域とか学校、職場とかいろんな所であると、パツといい空気になって、朝から心地よくなりますよね。これ、僕なんかよりも詳しい方いらっしゃるかと思うんですけど、仏教の言葉らしいですね、禅語にもある仏教の。「挨拶」と「拶」があるんですけど。「挨拶」というのは何かとい

う」みたいな言葉がありますよね。腹割って話そうって、双方向の。でもその時に、相手が、例えばお子さんが、思春期ぐらいの時にね、腹割ってくれるか、しっかりと自分の心の扉開いてくれるかどうか、夫婦でもそうですが、触れ合った中でね、些細なことでもぶつかり合って喧嘩になることだってあるんですよ、当然。でも、それだって、「こんなことで怒ってたんやな」、「こういうことで、不快に思ってたんやな」とか、相手を理解する一歩ですよ。こっちは勝手な思い込みじゃなくてね。だから、「双方向」って大切なことだと思います。当たり前のことですけどね。



うと、「相手に歩み寄る」っていう意味があるんですよ。歩み寄るんですね。簡単に言うと、「あつ、ねえさんおはよう。」って、歩み寄るわけです。で、「拶」は何かというと、相手が歩み寄ってきたら、「君のことなんか知らん」じゃなくて、こっちは相手に歩み寄ると、お互いがお互いに歩み寄るって、当たり前のことですけどね、こう迫り合うと言いましようか、「おはよう」ってきたら、「おはよう」って返すキャッチボールですとか、「まるのうえにせん」でしたら、伝えたら、どう受け取ったのか確認するですとか、話す、聞くですとか、コミュニケーションって、人間関係の入り口ですね。

「苦手」と「練習不足」

こういうこと言うと、「コミュニケーション苦手やわ。」とかね、そういうこと結構あったりするんですが、僕がよく言っているのは、苦手という意識がそこにあるだけでね、やっぱり、「練習不足」って置き換えようぜって、こ

うよく言うんですよ。例えばですよ、皆さん、家の間取りでこういうのがあります。ちよつと大きな声で言っているだけですか？セーの、どうぞ。「さんLDK」。ありがとうございます。では、これはどうでしょう。どうぞ。「にーLDK」。じゃ、これは？どうぞ。「ワンLDK」。何でここのだけ英語なん

でしょうか。もう、ホワイジャパニーズピーポーみたいなね。僕は、英語が苦手なんですよ。英語が苦手なんですけど、英語ペラペラしゃべる欧米の方からすると、日本語べらべらしゃべる日本人すごい言うんですよ。だってむこうは、アルファベットとか数字の組み合わせだけ、文字としてはね。こっちは、片仮名、平仮名、漢字とかね、もういろんなものの数字もあって、いろんな組み合わせがある中で、なおかつ、「さん」「にー」「ワン」ですよ。これが訳分からん、めちゃめちゃ高度なことやってるらしいですよ。こんなね、子どもたちが、娘とかでも言えてるわけなんですよね。これは何か言うた



も早くそこに行こう、心の居場所がそこにあるな」って、心の扉を開いていったわけじゃないですか、内側からしか開かないでもんね、心の扉ってね。自分自身に置き換えてもそうでもないね。なので、寄り添うって大切やなって思っんですよ。

お互いのいい所を見つめ合う

その時に僕よく言うのがね、「ユーメッセージ」って、僕もよーやっってしまうんですけどね、特に、夫婦喧嘩とかでよーあるんですよ。「お前が、あんたが」とかってね。ユーですよ。お前がとか、あんたがとか、ユーで来るとユーで返して、喧嘩になったりとかってありますけど、「アイメッセージ」って言うのがあるんですね。「私メッセージ」。私メッセージの方が響くんですよ、ね、褒めるにしても。「よくやったね。お母さんもうれしいで」とかね、或いは、叱る時なんかでも「何やってんのあんたは、ええ加減にせーや」って、こうね。ユーメッセージでいくのもいいんですけど、ある時期になってきたら、だんだんユーとユーがぶつかり合っって、「うせーな」って、こうなるかもしれない。何でこんなことを僕がずっと言ってるかという、僕ら人間というのはですね、欠点探しを始めちゃめちゃうまいんです。できない所に目が行ったりですか、別にそれが悪いわけではな

ら、ちっちゃい頃から、こういうったことを話したり聞いたりしているからじゃないですか。一から十まで書かせていただきます。ちよつと上から読んでいただけますでしょうか。せーの「いち、にー、さん、し、ご、ろく、しち、はち、きゅう、じゅう」じゃ、今度は、下から行きましょうか。せーの、「じゅう、きゅう、はち、なな、ろく、ご、よん、さん、にー、いち」で、ホワイジャパニーズピーポーですよ。欧米の方は、セブンはセブンなんです。フォーはフォーですよ。でも、僕は、状況に合わせて、「しち」が「なな」になったりね、「し」が「よん」になったりって、めっちゃめちゃ複雑なことしているんですよ。でも、僕ら普通にやれていきます。やっぱり子どもたちにね、何か続けることが大切やと言うよりも、こういうふうなね、分かりやすいことを言っておけると、伝えたことが伝わりやすいんです。「あなるほど、おー、ほんまやな」言うてね。

まず正そうとするな、分かるうとしよう

コミュニケーションは挨拶の教えで、歩み寄りキャッチボールや言いましたんで、「自分のお子さんに対する子育てで大切にしていること」と、先生方でしたら、自分の子どもでもいいですけど、「教育の現場で、教育者として大切にしていること、子どもたちのためにね、大切

いですよ、欠点探しは改善につながっていく大切なアプローチですから。でも、欠点探しがいまいちやったら、もう一個、僕ら大切にしたいなって思っているのが、いい所探しなんです。いい所探し、自分のいい所とか、うちのいい所など、いい所に目を向けると、褒めたり感謝したりするためのアンテナが立ちますし、大切やなって思ってますので、今日、「子育てで大切にしていること」を聴き合いながら、お互いのいい所を見つめ合っただこうと思っっています。じつと見つめ合っただこうも結構ですし、前置きを非常に長くしておきました。では、どうぞ。

元気が出るコツ・明るい話題

さあどうでしょうか、こういう話をしてみて、或いは、聞いてみてですね、いろんな価値観との触れ合いなんですけどもね、「うわー、なんか共感したな」とか、「うわー、元気がなってきたな、うれしくなってきたな」、「心がポカポカしてきたな」とか、「自然と笑顔になっってきたな」っていう方見えたら手を挙げていただきますでしょうか。未来に向けて、何かこう、いい所探しの話ですね、明るい話題が多かったと思うんですね。やっぱ、そういう明るい話題とかかしてるとね、話してる方も聞いている方

にしていること」についてのキャッチボールしていただくと思ってるんです。ここで大切なのが聞き手です。聞くもいろいろありますけど、普通、「門構えに耳」って書いたりするわけなんです。これ、よー家で妻にやられていることですよ。「はー、分かりました、やっときますわ。はいはい」と、聞くというより、聞き流されてたりとかね。でも、聴くは、心という字が入っています。傾聴の「聴」という字なんです。相手の立場に立って、相手の話に耳を傾けるっていうね。相手の立場に立ってのコミュニケーションなんですけど、これだけでもかなり時間かかるんですけども、簡単に心得だけ言うとね、この聴き方は、「まず正そうとするな、分かるうとしよう」って、分かるうとしようというその心掛けが大切なんです。

アマテラスさんがね、引きこもったわけじゃないですか、天岩戸ガシャーンって閉めて。太陽の神様ですから、世の中真っ暗になった時にね、いろんな神様が、外側から開ける開ける言うんですよ、心の扉を。この岩戸開ける、ガシャーンってやるわけですよ。開かなかったわけじゃないですか。外側から、ガンガンガンガン、開ける開ける、しゃべれしゃべれって言ったって、しゃべらないですよ。天岩戸、内側から開いたんですよ。何故か、外で神様たちが楽しそうなお祭りとか、「あー、私が求めていたような社会というか、空気がここにあるな、私

も元気になつてくると言いましたよ。例えばですね、感動した映画を人に伝えようとしてる時に、伝えていくこっちの方が感極まって、鳥肌立ってきたり、涙ぐんできるところってありません？脳の中で映像化しているんです。子どもたちもそうじゃないですか、家帰ってきて「今日こんなことがあって、めちゃめちゃうれしかった！」って、体で表現していませんか？学校で起こったことというのは、数時間前のことかもしれないですけど、語ってる時というのは、脳の中で映像化されていますから、その時と同じような心身の反応がある。だから、僕は、「頑張れ！頑張れ！」って耳もとで言われても、なかなか頑張れない時があります。でも、こういう明るい話題とか、いい所探しの話題をしゃべっているだけでもね、脳の中で映像化されて、何かうれしくなってきたり、気分が高まったり、元気が出てきたり。元気を出すためのほんの小さなコツって、そんな所にあるな、笑顔になるためのコツって、そんな所にあるな、って、こう思うわけなんです。

次号に続く



わたしも、おにぎりが作れるよ! ～松枝小学校1年生～

今年度、笠松町立松枝小学校で行われたすてきな実践です。

おにぎりの作り方を1年生にも分かりやすく説明していただきました。



松枝小学校は10年ほど前から、家族と一緒にお弁当を作る「お弁当の日」の実践をしています。今年度も3回行います。PTA母親委員会では、栄養教諭と一緒に、今年度最初の「お弁当の日」にむけて、小学校1年生の子どもたちにおにぎりの作り方を指導しました。

片手を三角にして、ご飯を押しませ。見てください、手はこんな形にぎるんですよ。

この日は「おにぎり給食」です。給食配膳が終わったら、みんなでごはんをにぎりました。



これでいいかな?不安な時も優しく教えてくださいました。

説明をよく聞いて、がんばって握りました。お手本と同じ手の形にぎれました。

食を通じたコミュニケーション

【感想】

- 子どもたちが楽しんでおにぎりづくりに取り組んでくれたのがよかったです。できたものを、笑顔で見せてくれてうれしかったです。
- みんな、説明したようにやろうとがんばっていました。分からない時は、「こんな感じでいい?」と聞いてくれました。
- お弁当の日の前の週に母親委員会がおにぎり作りをやってくれて、家族で、お弁当についての話がもりました。

みんなおにぎりが作れるようになりましたね! 「お弁当の日」には家族と一緒におにぎりを作っててくださいね!

「お弁当とかご飯とか、子どもと一緒に作るってちょっと大変そう。」そんな声も聞こえてきそうです。でも、それは家族の絆を深めるすてきなチャンスになります。

毎月第三日曜日は「家庭の日」です。「ご飯、一緒に作ってみようか?」とお子さんに声をかけてみませんか? 一緒におにぎりをにぎるだけでも、たくさんの会話が生まれるはずですよ!

県のホームページでは、家庭教育に関する情報を発信中! ぜひご覧ください!

岐阜県 家庭教育学級

検索



お気軽にご相談ください!

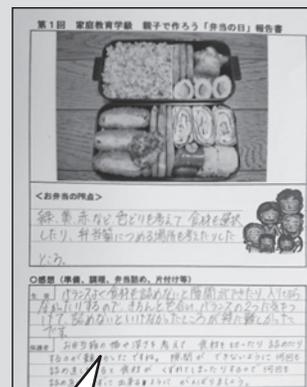
家庭教育学級や企業内家庭教育研修等、内容から講師選定までご相談に応じます。社会教育担当または家庭教育推進専門職までご連絡ください。

- 環境生活政策課 ☎058-272-8752 (直通)
西濃県事務所 ☎0584-73-1111 (内線219)
中濃県事務所 ☎0575-33-4011 (内線210)
可茂県事務所 ☎0574-25-3111 (内線208)
恵那県事務所 ☎0573-26-1111 (内線209)
飛騨県事務所 ☎0577-33-1111 (内線235)

親子で作ろう「弁当の日」

平成30年度に神戸町立神戸中学校で行われた工夫あふれる実践です。

①夏季休業中に親子で弁当作りに取り組み、写真を添えた報告書を作りました。



保護者あての案内文書には、取組の趣旨をふまえ、お弁当を親子で作る際の「心がけ」が書かれていました。

【心がけていただきたい事】

- 1 子どもと話し合い、できる範囲で実施する。
- 2 買いもの・調理・弁当箱詰め・片付け、どれか1つでも自分でやってみる。
- 3 できるだけ親が手を出さず、優しく見守ってあげる。
- 4 失敗しても怒らず、優しく接してあげる。
- 5 パタパタするのではなく、時間に余裕をもつ。
- 6 怪我や火の元には注意する。

③町の文化祭で紹介しました!



保護者の方は一緒に料理を作りながら弁当作りのノウハウを子どもたちに教えました。中には、父親が料理に参加し、「家族が協力して当然の時代だから、性別に関係なく家事をすることが大事だ。」と息子に話したというエピソードもありました。

「親子で会話をし、ふれあう場となるように」「食」に興味をもつ機会となるように」という願いのもと実施された活動です。



この年は、「体育大会に親子で作ったお弁当を持参して食べる」ということも行いました!

②提出された報告書はPTA役員が審査し、学級1作品を選びました。



【保護者】

夏休み中、部活のお弁当作りや昼ご飯作りと一緒に料理をすることができました。前日の準備から最後の片付けまで意欲的に行いました。できたおかずで、家族のお弁当も作ったので、父親や祖父母にも好評で、家族の「笑顔」を見ることができました。温かな気持ちのこもった料理が皆を笑顔にすることを忘れないでほしいなと思います。

食で深まる家族の絆

【生徒】

体育大会で力を出せるメニューを母と考え、前日に下準備として豚肉を巻いたり、ハンバーグのタネを作ったりして、当日に備えました。夏休み、いろいろな料理にチャレンジしたので、調理は難しくなかったけれど、色のバランスを考えながら、お弁当を詰めるのに苦労しました。でも、出来上がりは、見栄え良く味もおいしくできたので大満足です。

家庭教育応援団! お弁当で深まる家族の絆・コミュニケーション

「障がいてなに?」・・・不思議な体験

岐阜聖徳学園大学教育学部特別支援教育専修 教授 安田 和夫

聴覚障がい者の方々と バドミントン交流会

今年の五月、岐阜県聴覚障がい者協会青年部のメンバーと一緒にバドミントン交流会を行う機会がありました。本学で特別支援教育を学ぶ学生も三名、そして、私も一緒に参加させていただきました。

参加した学生は、入学してから少しずつ手話の勉強をしていたので、なんとかコミュニケーションを取れるのではないかと学生達は思っていたかもしれません。しかし、目の前で繰り返される手話のスピードについていけず、はじめは、ただただ萎縮しているように見えました。開会式が始まると、司会も青年部会長の挨拶も手話だけ。学生のそばに行き、手話の読み取りをすると、ようやく内容がわかり、少し安心した様子でした。

その後、チームが決まり、ダブルスの組み合わせなどを決める話し合いが始まりました。それぞれのチームが輪になって、一番よい組み合わせを考えていきます。ここでも、「バドミントンやったことあ

きあってあげていました。その姿はスポーツマンシップそのもので、相手に対する思いやりにあふれ、心から感動しました。

試合後の食事会にて

音声日本語でやり取りすることが「普通」だと思っていた学生にとっては、この一日は、とても貴重な体験となりました。多数と少数が入れ替わるだけで押し寄せる孤立感や自己不全感を肌で感じることもできたことは、これから特別支援教育担当教員を目指す学生にとって、かけがえのないものになるでしょう。参加した学生達は、「障がいてなんだろう」「普通」ってなんだろう」と、自問自答を繰り返したに違いありません。

また、こんな風景がありました。試合が終わった後、円座のガールズトークが始まる中、コートでバドミントンの練習を続けている二人の男性がいました。一人は、本大会の中で、ナンバーワンのプレーを見せていた青年部の若者、もう一人は、手話サークルから親子で参加していたお父さんです。日頃の運動不足を痛感したのか、お父さんは、積極的に初めて会った若者を誘って、相手をしてもらっているように見えた。若者は、お父さんへの敬意を忘れずに、丁寧にレシーブを繰り返し、練習の相手を時間いっぱい

るの?」「手話は分かるの?」と、手話による質問の受け答えです。

交流会が終わった後、学生達に聞くと、それからの青年部の皆さんとのコミュニケーション体験は、「これまでに味わったことのない不思議な感覚であり、初めての不思議な体験だった」と振り返っていました。「手話が第一言語の世界にようこそ」です。今まで、音声日本語を自在に操り、意見や思いを伝え合う自分達こそが「多数派」であり「普通だ」と思っていたのに、ここでは、「少数派」であり「普通ではない」のです。初めは、自分だけが取り残されている感じだったと言います。

しかし、次第に、青年部のメンバーが、手話でのやり取りについて困惑する学生の存在に気がついて、わかりやすい手話表現に変えてくれたり、ゆっくり手話で話してくれたり、それでもわからなければ、手話に声をつけてくれました。学生も、そんな気遣いを感じつつ、徐々に雰囲気慣れ始め、表情も柔らかくなり、チーム対抗の試合が始まる頃には、ダブルスのペアと簡単

の誠実な人柄、ここまでの努力はもろんのこと、ご家族の皆さんの支えや聾学校の先生方の教育の成果を感じることができました。

共に生きる智恵を育む 「交流及び共同学習」

今回、学生達が経験した「不思議な感覚」「不思議な体験」は、自分たちの「常識」や「普通」を見直すとてもよい機会になったことには間違いありません。若いからこそ、より強く感じる事ができたのではないかと思います。

現在、岐阜県では、聾学校をはじめ、特別支援学校に通う児童生徒が、日常的継続的に、居住地の小学校や中学校の児童生徒との「交流及び共同学習」を進めています。互いの違いをそれぞれのかげがえのない個性と理解し、互いに関わり方を工夫したり、必要な気遣いを考えたりしていくことよって、相互理解の大切さなど、将来、地域を支え合う共生社会の一員としての仲間関係を築いています。「障がいがある」「違いがある」

な手話を使って作戦を確認したり、喜びのハイタッチを繰り返したりしていました。若い子同士、こどばの違いをすぐに乗り越えていきます。試合の合間には、ダブルスペア同士で、趣味、バドミントン歴など自己紹介を手話で進めていき、一層仲良くなりました。

試合後のガールズトーク

白熱の試合が終了し、表彰式までの待合時間には、何人かの若い女性が円座になり、打ち解けた雰囲気の中で、ガールズトークが始まりました。学生達も、その輪の中に誘われて、笑顔で話し合いに参加しています。「この出身なの?」「大学でどんな勉強しているの?」「卒業したら何になるの?」「矢継ぎ早の質問に、学んだ手話を駆使して、学生が答えています。手話を読み取り手話で表現するのは大変そうですが、試合前の緊張はいつしか吹き飛び、とても楽しそうでした。中には、「友達になろうね」と、メールやラインの交換を始めている風景もいくつかありました。

と排斥するのではなく、「共に生きる智恵」を育むことは、これからの未来予測が困難な時代だからこそ、必要な資質能力の一つとも言えます。最近、私の手話サークルにも、親子で、兄弟で、手話を学ぼうと加入していた方が増えていきます。聴覚障がい者の方々の豊かな表現に学び、手話によるやりとりを楽しく学んでいたいています。これも「共に生きる智恵」を育むことになるとは思いません。

来年の青年部バドミントン交流会にも学生と共に参加したいと考えています。毎週日曜日夜に続けている、中学校教員時代の教え子達とのバドミントンの練習にも力が入ります。

今年は、準優勝でしたが、来年こそ、優勝できるようにがんばりたいと思います。(笑)



心と体の元氣につながる会話

本校では、登校してくる子ども達をたくさんのお花が迎え、出てくれます。パンジー、チューリップなど、四年生が中心となって花を世話し、学校全体が明るい雰囲気になっています。

私は今年の四月に異動してきました。初めての校舎、初めて会う子どもたちやおうちの人：慣れない環境の中で不安でいっぱいでした。でも毎朝、たくさんのお花たちを見ると「子ども達が元氣に一日過ごせるように今日も頑張ろう！」という気持ちになります。たくさんのお花は、本校の宝物の一つです。

私が日々大切にしていることは、「会話」です。相手の気持ちを理解したり、信頼関係を築いたりすることにも必要不可欠です。話をする時は、笑顔で心掛け、子ども達が安心して話しやすい保健室を目指しています。



よくわかっていても、どのように伝えたいのか分からずに話せないこともあります。

このような時は、「会話」をしながら、伝えたいことを引き出して言葉にしていきます。そうすることで、どのように話せば相手に伝わるか学ぶこともでき、私もどのような対応をしたらいいのか明確になります。相手に伝えるための力をつけることがよりよいコミュニケーションシヨンを身に付けることにもつながると思います、保健室に来室してきただ時は、そのチャンスととらえ、会話を通して身に付けられるようにしていきます。

また、子どもは心の不調をなかなか言い出せなかったり、中には気づいていなかったりすることもあり、その代わりに体の不調として訴えることがあります。「お腹が痛い」「だるい」「いつもより元氣がない」「表情が暗い」など…。ただの体調不良としてやり過ぎさないうちに、こんな時もやはり「会話」が大切です。

以前、こんなことがありました。いつもニコニコしている子が、何日か続けて「お腹が痛い」と来室してきました。気になり、じっくり話を聞くと、友だちとけんかをしており、仲直りができていないことが分かりました。その子と仲直りしたいのにできない辛い気持ちや、思いを分かってもらえないイライラした気持ちを「そうやな、それは辛かったなあ」「仲直りしたくて頑張ったんやな」などと受容や共感しながら聴いていると、だんだんと笑顔に変わり「先生に聞いてもらえてよかった。痛いのも治まってきた。」とすっきりした様子で教室に戻りました。その子の心のモヤモヤとしたものが、軽くなったんだと実感した瞬間でした。

会話はスキシップの一つでもありません。ぜひ家庭でもたくさん会話をしながら、授業の内容や給食の献立、友達とのこと、何でもいいです。それが、心と体の元氣にもつながっていくのだと思います。

保健室には、子どもたちは様々な理由で来室してきます。ケガや病気などの身体面での不調を訴える児童、友達とのことや勉強のことなどの心の面での不調を訴える児童など。その来室理由は、多岐に渡ります。手当はもちろんのこと、それに至った理由や背景から再発防止方法を子どもと一緒に考えたり、今抱えている不安や心配事などを共有したりし、「頑張ろう」と子どもが前向きに思えるように心がけていきます。

来室してきた子どもの中には、うまく自分の体のことを話すことができず、「せんせーここ！」とけがしたところを見せるだけだったり、「痛い」と単語だけで伝えようとしたりすることもあります。ケガなのか体調不良の訴えなのか分からず、時間をかけて聞き取りをすることがあります。自分の体のことは自分が一番

放課後になると、職員室はたくさんのお話で溢れています。学級での出来事、保健室での出来事など…。会話をすることで、気持ちが軽くなったり、前向きになったりします。私は、保健室はそのような場であって欲しいなと思います。将来、子ども達自身がきれいな花を咲かせられるように、一人ひとりの会話を大切にし、子どもたちの心に寄り添っていきなさいと思います。



わかもの食堂

岐阜市立岩小学校教諭

熊谷 玉緒

夕飯の支度をしていると、ふと思いつく光景がある。台所から二階に通じる階段の、ちょうど中間あたりに腰かけ、下を眺めている私。部屋の真ん中にあるテーブルでは、数名の若手教師が、学校での出来事を熱心に話している。それをふんふんと聞きながら、リズムカルに包丁の音を響かせる阿佐子先生。お鍋から立ち上る、実家のとは違う味噌の香り。何とも穏やかだった「あのとき」は、今でも鮮明な記憶として私の中にある。

「ねえ、うちで一緒に夕飯食べない？」新採二年目の秋ごろだったか、学年主任として指導してくださっていた阿佐子先生からそう言われた私は、正直言うと少々面食らった。かなり年上の、大先輩のおうちに上がり込んでごはんをいただくなんて、厚かましいし、ちょっと気詰まり。何より、よそのおうちでごはんをいただいた経験がほとんどない私にとって、どう振舞えばよいのか見当もつかず、不安だった。

不安と言えば、毎日しかず学校での失敗もそうだった。どうしてあんなことをしてしまったのかしら、あんな言い方をするんじゃないかな、どうしたらよいのだろうと、胸の中でいつも自分を責めていた。しかし、若さゆえの傲慢さで、表面上は強がっていた。年の近い同僚と、些細なことでも衝突することもあった。そうして自分が嫌になっていった。

そんな私の内面に、阿佐子先生は気付いておられたのだろう。ご自宅へ車でお送りしている途中、「乗せてもらえばかりでは悪いわ。何もなければ、一緒に夕飯を食べましょう。」と言われたのだった。断るのも失礼かと思ひ、少し重い気持ちでお部屋に上がらせていただいたことを覚えている。古いけれど、丁寧に手入れのされているおうちだった。台所には使い込まれた調理器具が並ん

でいた。「塩イカを買ってあるの。昨日から塩抜きしてるのよ。」塩が詰め込まれたイカなんて、それまで見たこともなかった。「青菜はからし和えにしましょう。海苔を入れるときれいね。」みるみるうちに、おかずが出来上がっていった。そして、あつという間にお腹の中に納まっていた。どんな話題を提供しようとか、教育について論じようとか、そんなことは考える暇はなかった。ただただ、おいしかった。黙々と食べ終え、「ごちそうさまでした。」と頭を下げた私に、阿佐子先生は「これからもときどき、車で送ってくれないかしら。そうしたら、また一緒に夕飯を食べられるでしょう。」と言って、送り出してくださったのだった。

もちろん、その後は「先生！今日もお送りします！」と毎日のように夕飯をご一緒した。私がおかずを作らせていただくこともあった。今から思うと珍妙な料理だったが、阿佐子先生は笑いをこらえたようなお顔で「あなたに任せたのだから、そのままいいわよ。」と言って食べてくださった。そんなことを嬉々として職員室で喋っているうちに、若手の同僚たちが「いいなあ、一緒に食べさせてよ。」と集まるようになった。阿佐子先生はきちんと食費を計算し「今月は〇〇円ね。」と、私たちが気兼ねなく食べられるようにしてくださっていた。でも、とても安かった。ほどなく、阿佐子先生はこの集まりのことを「わかもの食堂」と呼ぶようになった。料理をしたい者が包丁を握り、皿洗いなら何とかという者は皆にからかわれながらスポンジと格闘する。その合間に、それぞれが失敗談や悩みを話す。解決はしないけれど、何となくうまくいくような気になって、帰っていく。そんな日々の中で、私は少しずつ、自分や周囲と折り合いをつける方法を考えられるようになっていった。

「わかもの食堂」は、私が学校を異動した後も、メンバーが入れ替わりながらしばらく続いていたそう。きっと、若手の先生たちは、私と同じように、温かいおかずと温かい雰囲気味わっていたことだろう。

夕飯のおかずと共にいただいた「あなたは、そのままでもいいわよ。」という阿佐子先生のメッセージは、今でも、私にとっての、無限の栄養である。

チャレンジ精神

私には、中学三年生と小学六年生の娘がいます。ここ数年は、二人の娘が本格的にカヌー競技を始めたこともあり、その試合の応援など土日はほぼ一緒に過ごすことが多くなりましたが、それまではどちらかという仕事を中心で子育ては二の次という状況でした（最近のカヌーの試合で全国を飛び回っています。四月から六月までの二カ月間で、富山県、山口県、岡山県、青森県に行きました）。

現在、私は働き盛りの三十八歳で、多くの責任ある仕事に従事しています。時には深夜におよぶ業務に従事しなければならぬこともあります。その中でも休日はしっかりと取り、子どもたちと過ごす時間をできるだけ確保するように心がけています。妻も仕事に就いていますが、「仕事」「子育て」「家事」と私の何倍も慌ただしい日々を送っています（妻には本当に頭が下がります）。

さて、昨年度からPTAの役員を務めさせていただくこととなり、私もより身近に子育てや教育について考えるようになりました。今年度からはPTA会長を務めさせていただき、校長先生や教頭先生と連携しながら学校運営の一端を担っていますが、私自身PTA活動を通じて子どもたちと共に学び、成長しているという感覚です。日頃から学校へは小まめに顔を出すようにし、校長先生

や教頭先生とお話をさせていただく中で、子どもたちの様子を把握するように努めています。

以前、脳科学者である茂木健一郎氏の本を読みました。茂木氏は「欠点のすぐ傍らに長所がある」「人間の脳は自分ができないと思っていたことができるときにドーパミンが出て成長するので、苦手なことにも果敢に挑戦することが大切である」と書かれています。

子どもと毎日過ごしていると、「テレビを見る時間が長すぎる」「寝る時間が遅い」「勉強を全然しない」など色々なことが気になって、毎日のように小言や細かい注意をしていました。まさに子どもは短所ばかりに目を向けてしまい、その傍らにあったであろう長所を見逃してしまっていたわけです。しかし、茂木氏の本に書かれていたことを教訓に、今は子どもの短所ばかりに目を向けるのではなく、長所を見つけ出す目を養い、褒めて自信を持たせてあげられるように心がけています（何でも褒めればよいというものではないため、叱るときと褒めるときはバランスも考えるようにしています）。

ある新聞記事に、「自身の頭で考え、判断できない子どもが増えている」と書かれていました（どのような調査に基づいて、この仮説を立てたのかは不明ですが、実際に子どもと話してみると、何とか行動を起こして失敗することは絶対に許されないと考えているのは事実でした）。また、その新聞記事は学校教育の問題点ばかりを指摘していましたが、私はこうした教育上の問題は、学校のみならず、保護者や地域を含めた社会全体で対応していく必要があると思います。

国際化や多様化する現代社会の中で、今後、子どもが社会的・職業的に自立し、たくましく生き抜いていくためには、様々な困難と対峙した時に、勇気をもって挑戦し、解決していく力を身に付けていく必要があると思います。

私は「失敗の数＝経験値の増加」と捉え、子どもには慣れ親しんだ環境から離れ、失敗を恐れず何にでも積極的に挑戦するように勧めています。挑戦することのメリットを教え、子どもの心に



PN. 奏兎 (揖斐郡)



PN. Tomosaburo (養老郡)

question 1

出題・赤堀 怜希 (岐阜市)
〈答えは34ページ〉

サカナ占いで使う秋の魚って何の魚？

楽しい読み聞かせ

6

自分のペースで自分らしく 参加する読み聞かせ

多治見市立精華小学校PTA

私たちの学校には、本に関するボランティア団体が二つあり、「エルマーの会」と「げんたろう」といいます。

「エルマーの会」は月に二回、本の修理や整理をして、読み聞かせを月に一度行います。メンバーは在校生の母親やOBの方が日中を中心に活動をしています。

「げんたろう」は月に一度、月曜日の朝八時十五分から、各クラスに入って十分程度読み聞かせを行います。メンバーは在校生の母親だけでなく、父親・祖父やOBの方と多彩です。読み聞かせをする本は

いろいろです。特に高学年にはメッセージ性のあるものを選ぶ人もいますし、季節感のあるものを選ぶ人もいます。もちろん、家にあるお薦めの本を読むこともありま

私は「げんたろう」に子どももの転校を機に三年前に入りました。子どもの様子や学校の雰囲気が見られる上に、仕事前に短時間で読み聞かせに行くことができることが選んだ理由です。

私の子どもは、小さい頃から読み聞かせが大好きで、特に笑える本が大好きでした。短編の笑い話、落語、少し大きくなるとくすくす

笑えるシュールな作品が好きになりました。低学年の頃、「チェロ弾きのゴージュ」を読んだから、宮沢賢治にはまったこともありま

その時は長い作品を読むことが多くなったことが嬉しかったですが、準備が大変だったので少し困りました。

六年生になった今は漫画にはまっていて、小説などは誰かが薦めた本でないとなかなか読まなくなりました。しかし、私が読み聞かせの練習を自宅でしていると自然に聞きに行く一週間前に五冊ぐらい、

様々なジャンルの本を借りてきて、一度黙読をしてから声に出して読み聞かせの練習をします。その時は子どもの表情や感想が気になるので、子どもの方を向いて読み始めます。すると、「これが一番面白い。」とか、「これよりこっちの方がいい。」とか簡単な感想を言って去っていきます。

六年生の彼にはいくつかのお気に入りがあるようです。平田昌広作「おかんシリーズ」は、読み聞かせに限りお気に入りのようです。これは軽快な関西弁の掛け合いが何でもない日常のワンシーンをくす

くす笑えるシーンに変えることができる作品です。

各クラスに入って気付く事は、低学年はストリートに感情を出してくれます。気になるところはそのまま声を出してくれま

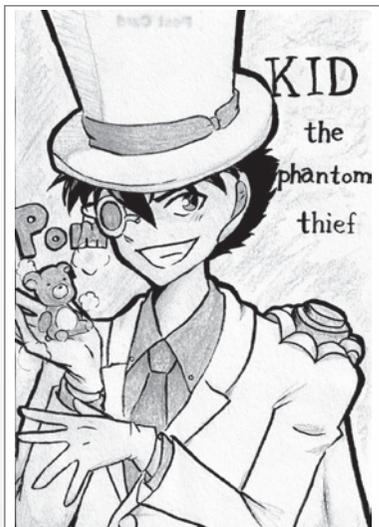
話もしっかり聞いてくれます。低学年と比較すると反応が物足りないと思うかもしれませんが、静かに笑ってくれますし、軽くうなずいてくれたりもします。

私は、読み聞かせは自分が楽しめることが一番だと思います。それぞれのペースで皆さん参加されています。特に、私が子どもと読み聞かせたい本を選ぶようにしています。これからも自分のペースで自分らしく読み聞かせに参加していきたいと思っています。



Illustration&Quiz

イラスト&クイズ



PN. カイヤナイト (高山市)



PN. 田口こはる子 (揖斐郡)

question 2

出題・足立 龍児 (瑞浪市)
〈答えは34ページ〉

フランスのパンはフランスパン。では、日本のパンは？

親の背中

生きる道しるべ

各務原市立中央小学校

P T A 会長 田中博之

我が家には中学二年生と小学六年生の娘がいます。

二人とも家族のことが大好きで、私とふざけあったりして賑やかで愛情溢れる家庭が築けていると感じています。

そんな子ども達に私が願うことは、

常に前向きな気持ち忘れず、自分の人生を楽しむ

親の願いは、わが子が、いつ、どんな場面に出会っても、どんな環境に放り出されてもたくましく生きていける人間に育ってほしい、ということでしょう。

では、どうやってそれを伝えればいいのか？言葉や方法論で人の生き方を聞かせただけでは、子ども達の心には残りません。私は、それを親が自身の生き方で示すべきだと考え

ています。

具体的に私が日々意識しているのは三つです。

一つ目は、「常にポジティブに物事を捉える姿勢」で、特に不都合なことが起こった時に「どうしてこんな目に遭うのだろう？」と悲観するのではなく、「これは神が与えた試練だ。これを乗り越えることで何か得るものがあるはずだ」と捉えて自身の成長に繋げるようにしています。そうやってどんな状況でもポジティブな面に目を向けることで、どんな苦労も乗り越える力を生み、自分を前向きで幸せな気持ちにすることができ、そして苦勞すればするほど、充実した良い人生だったと思える死に方ができると信じています。

二つ目は、自身の対人関係です。人は一人では生きられません。人は必ず誰かしらのお世話になりながら生きていますので、親自身が周りの人たちとポジティブな人間関係を築いていく姿を見せることも大切だと思います。また、前向きに生きていけば自然と良い人も周りに集まってくるし、それを見て育った子どもは自分が大人になったときも、親がし

ていたように周りの人とよい関係を築いていくことができるのではないかと思います。

三つ目は、しっかりと愛情を注ぐことです。人間は原則として、自分が大事にされていなければ、他人を大事に思いやることはできません。我が家では小さい頃から抱きしめたりキスをしたり、ほぼ毎日スキンシップをしており、子どもが愛されていると記憶に留めるくらい、行動で伝えていきます。例えば、仕事から帰って、寝ているフリをしている娘のほっぺたにチューすると、抱き着いてくるといった感じでした。また、心が疲れた時は、「いっぱいギューして」と甘えてくることも…。家庭は、外で傷付いた羽を休める場所でなければならず、自分が愛されたという記憶は、誰かを愛するという資質を育みます。

天から子どもを授けられ親となった我々は、一生懸命に苦勞しながらも自身の人生を楽しみ、そして家族を幸せにし、その生き様を子ども達の記憶に刻んで「生きる道しるべ」となることが定めなのだと考えます。そして親と同じ道を歩く子ども達の生き方や考え方こ

そが、この世に残せる自身の生きた証なのだと信じ、私が人生において大切だと思うこの三つのことを、しっかりと子ども達に伝えていきます。

ねこは態度で話します

岐阜市立岩野田中学校

P T A 会長 沢田和秀

みなさんは小学校の担任の先生を覚えていますか？中学校の担任の先生はどうでしょう？高校は？その中で、一番よく覚えている先生はどんな先生でしたか？その先生のこと

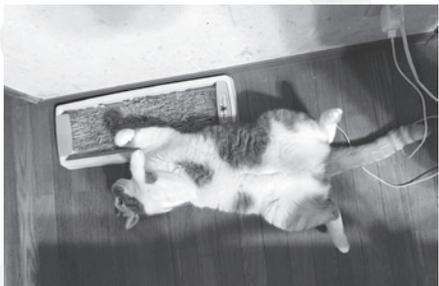
が好きで覚えているのでしょうか？それとも嫌いだっから覚えているのでしょうか？
中学一年生のとき、初めてこの先生いやだなと思ったことがありました。その先生は担任ではなく、数学の担当でした。最初のテストで九十点くらいの点をとりました。それを返してもらおうときに、「さすがは〇〇の弟だな」と言われました。〇〇は私の姉の名前です。姉は成績優秀で、何年前にその先生は姉の担任をしていました。テストの点数は予想と大きく違わないものですが、そのときの先生の一言はずっと記憶に残っています。

たしかに私は、〇〇の弟ですが、答案用紙には自分の名前はきちんと書いてあります。たつたそれだけのことで、その先生のが好きでなくなりました。先生のことは気に入らないけれど、数学が嫌いなわけではありません。しかし、気持ちはずっと晴れませんでした。四十年ほど前のことですが、この記事を書くときにふと思ひ出しました。先生にとつては、親近感を持つてもらいたい配慮だったようですが、個人的にはなぜか覚えているよくない出来事です。言葉を発することは難しいです。これまでに私の言動によって不快だった方、申し訳ありません。

さて、私の家のことに話を移します。どの家でも、親子になるとずっと親子です。両者のよいところもよくないところも飲み込みながら過ごします。この「よい」と「よくない」をどう判断するかが難しいですが、どちらかによいことは、相手にはよくないことであることもあります。両者の意見が「よい」で一

致することもあるし、その逆もあります。しかし、「よい」とか「よくない」という話ができるのは、それだけ対話しているからと考えられます。しかし、私の家ではそれは妻のおかげで、私の貢献度は小さいです。一般に会

話がかみ合うには共通言語が必要で、しかも共通の対象が必要です。これがわからないと、頭が会話を拒否し、「あなたの話は面白くない」となってしまいます。共通の対象のためには、自ら情報収集するか相手に直接聞くか方法があります。少なくとも話そうとしている人は、対象を理解しているので、私はその人に直接教わるのが簡単だと思っています。ですから、話を聞くことと、話が対象に届くまで待つことは得意なつもりです。個人的には、気長に待てますが、すぐに答えが必要な場合が多いので、なんだか慌ただしいと感じます。ちなみに、自分で情報収集するのも好きなので、そこに時間をとられすぎて、やはり慌ただしくなりがちです。実現は難しいですが、みんながじっくり考えてゆつくり行動できたらいいなと思います。



親子ではてな



Q1 秋に旬をむかえるキノコですが、「占地」と書くのは次のうちどのキノコでしょう?

- ア シイタケ
- イ ヒラタケ
- ウ エリンギ
- エ シメジ



Q2 中秋の名月は「十五夜」とも呼ばれますが、もう1つ別の呼び名があります。それは次のうちどれでしょう?

- ア 芋名月
- イ 豆名月
- ウ 栗名月
- エ 米名月



応募方法

応募者は、はがきで、9月末までに下記の宛先へお送りください。
(1人1枚・当日消印有効)
※クイズの答えは1問だけでもOKです。

宛先 〒500-8816
岐阜市菅原町3-3
岐阜県校長会館内
岐阜県PTA事務局
「わが子のあゆみ編集部」

なお、応募はがきには『わが子のあゆみ』への感想・意見やなぞなぞの問題と答え、逆さ言葉などを記入してください。

●9月号クイズの答え

- 郵便番号・住所
学校・学年・氏名
保護者名
- 『わが子のあゆみ』への感想・意見
- 「なぞなぞ」の問題と答え
- 逆さ言葉

7月号クイズ答え

- Q1 **イ**
- Q2 **ウ**

7月号のクイズ当選者

浅野 佑太 (岐阜市)	五十川陽菜 (揖斐郡)
坂井 りほ (各務原市)	河村 怜奈 (関市)
西村 茶々 (各務原市)	鈴木 麻友 (郡上市)
林 優奈 (各務原市)	和田 夢彩 (郡上市)
堀 希実 (羽島郡)	伊佐治綾那 (美濃加茂市)
伊藤 慎介 (山県市)	三宅 晴 (美濃加茂市)
勝 有朝果 (不破郡)	

なぞなぞの答え

- ① 鮎(魚+占う)
- ② ジャパン

コミュニケーションを大切に

本巣市立一色小学校PTA会長 松井 華織

わが家には、中学二年生、小学六年生、二年生の息子たちがいます。毎日、習い事があり、上の二人の息子たちはスマートフォンを片手に動いています。車の移動中など、動画を見たり、ゲームをしたりする姿をよく見るようになりました。そのような状況の中、学校で行われた情報モラル教室で学んだことやニュースでの事件報道から、家族で話し合い、約束を作りました。

一 リビングで使用する
何かあってもすぐに相談したり、子どもたちの顔を見ながら声をかけたりすることが出来るようにです。

二 宿題が終わってから使用する
楽しいことは早くやりたくありません。やるべきことを必ず終わらせてから使用することによって約束しました。

スマートフォンは、とっても便利で楽しいものですが、使い方一つ間違えると危険がいっぱいです。常に子どもたちとコミュニケーションをとりながら、一緒に楽しんでいきたいと考えています。



松井家の巻

92



話そう!語ろう! わが家の約束



我が家には高校二年生の娘と中学一年生の息子がいます。子どもが小さい時から共働きでしたので、約束としてあらためて決めているわけではありませんが、毎日の積み重ねが自然と我が家の約束になっています。

約束一 家のことは家族みんなで行う。
早く帰ってきた人が洗濯物を取り込む。食事の準備が始まると子ども達も箸を並べご飯をよそう、お汁をつける。食べた後は食器を流し台まで運び、食卓テーブルを拭く。どこの家庭でも当たり前に行っていることかもしれないですが、そんな何気ないことが忙しい毎日の中では本当にありがたく、子ども達は何も言わなくてもやるのが習慣になっています(やらされている思いもあるのですが)。そして同時に感謝の気持ちを持つことができますようになったと思います。

約束二 毎日朝の挨拶をする。
これは、なかなか話す機会も減ってきた父親が毎朝繰り返して子どもに言っています。寝起きでぼーっとしているのですが朝の挨拶をしてすっきり朝食も摂れ、支度もでき、父親も仕事を頑張れることと思います。

親が子にしてやれることは当たり前前のことを当たり前前に出来る大人にしてあげることだと思ひ、これからは我が家の習慣を続けていきたいと思ひます。

渡部家の巻

93



可児市立東可児中学校PTA副会長 渡部 明美

毎日の積み重ねの大切さ

子の思い

わたしの家族

恵那市立上矢作小学校

三年 川上琴巳

わたしの家族は、おじいちゃん、おばあちゃん、お父さん、お母さん、中三のお兄ちゃん、小六のお姉ちゃん、わたし、三才の弟の八人家族です。わたしの家族は、みんななかよしです。家族みんなで、いろいろ楽しいことを話しながら、ごはんを食べる時間が一番好きです。

そして、わたしは、家族のことをいつも考えてくれるお母さんが大好きです。お母さんは、家族八人分のごはんを作ったり、せんたくをしたりして、毎日とてもいそがしいです。まだ小さい弟のお世話も毎日しています。とても大へんそうです。だから、わたしは、お米をあらったり、ごはん作りのお手伝いをしたりして、がんばっています。少しでもお

母さんが楽になってくれるとうれしいです。

毎日お世話になっているお母さんに、気持ちを込めてプレゼントをあげたいです。

「お母さん、いつもありがとう。」

笑顔にさせる仕事

下呂市立宮田小学校

六年 今井彩世

私には将来の夢があります。それは、ホテルの従業員になることです。以前、ホテルに行ったときに、ホテルの従業員さんがとても優しく接してくださいました。言葉遣いもとても丁寧で、素敵でした。私はそれを見て、「すごいなあ」「カッコイイなあ」と思いました。私は、つい口が悪くなってしまうことがあります。みんなを笑顔にするためにはホテルの従業員さんのような優しい言葉遣いが目標です。普段から言葉遣いに気をつけて、「素敵だなあ」と思ってもら

えるようになりたいです。

あとは、英語の勉強もがんばりたいです。私は英語が苦手ですが、ホテルには外国の方もたくさんいらっしゃるので、いろいろな外国の言葉を勉強しなければいけません。毎日の授業に集中して向かい、将来はたくさんの方の言葉を覚えたいです。私は、カッコイイホテルの従業員になって、たくさんのお客さんを笑顔にしたいです。

まずは一言から

瑞穂市立穂積北中学校

三年 本田真樹

「Where is this place?」「Would you tell me?」と、外国の方に、こづ聞かれたとき、あなたはどうしますか？突然話しかけられた人の中には、戸惑いや不安を感じる人も少なくないのではないでしょうか。

その心の中には、「体が大きくて威圧感がある」「自分の英語が通じ

親の願い

から始めてみませんか。

母親の思い

大垣市立日新小学校PTA副会長

今津公子

私は六月が好きです。梅雨の季節、洗濯物に悩まされる六月。でも私は、二人の子どもが産まれた月なので、特別な月なのです。

長女は十二歳、長男は九歳になりました。長女は、八歳からソフトボール少年団に入り、土・日もすべて練

ず、恥ずかしい思いをするのではないかと、などという外国の方に対してこのような思いが少なからずあると思います。

昨年、穂積北中学校に韓国から学校の先生方が訪問にみえ、一緒に給食を食べる機会がありました。私は先生方と英語で話をしました。話をするうちにあることに気がきました。それは、初めて会った人との接し方が外国の方と日本の方では違うことです。韓国の先生はとてもフレンドリーで、すぐに打ち解けました。しかし、他の班の仲間はいつも賑やかなのに、黙々と給食を食べていて、まるで話しかけられるのを拒むような感じでした。この日が来るまでに韓国語を調べたり、覚えたりするなど、話してみたいという興味はあるのに、自分から心を開けず、話しかけられないのです。

二〇二〇年には東京オリンピック・パラリンピックが開かれます。世界中の様々な競技の選手と共に、大勢の外国の方が日本を訪れます。

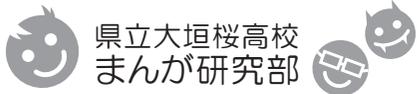
習っています。けん玉、一輪車、折り紙も得意な頑張り屋さんです。学校での出来事を、私も学校で長女と一緒にいたかと錯覚するくらい、よく分かるように話してくれます。

弟は、七歳から野球少年団に入り、帰宅後すぐに壁を相手にボールを投げたり、素振りをしたりするくらい野球大好き少年です。弟の方も学校の事を話してくれますが、お姉ちゃんとは違う、別の方向から攻めてきます。

お風呂の中や寝る前などに、「ママ、俺に聞きたいことがある?」と言ってくるのです。「うん。」

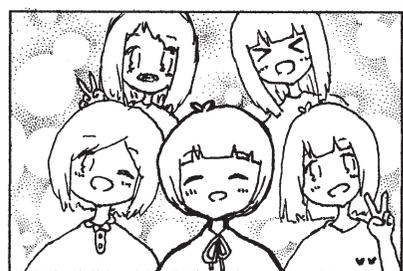
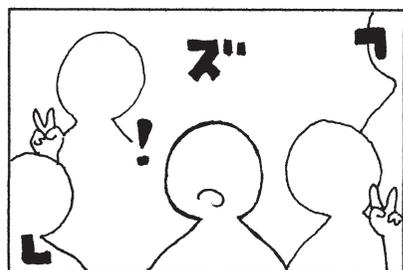
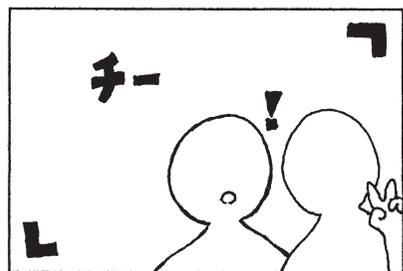
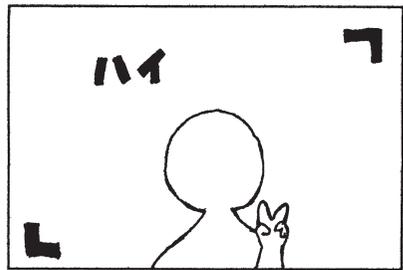
「My father is tired.」すると、彼らは嬉しそうに、「Oh, I see.」と答えてくれました。たった一言しか話すことができなくても、意思疎通できたことが本当に嬉しかったです。

このように、英語が話せないからコミュニケーションが取れないということはありません。思いさえあれば、ジェスチャーでも、片言でも、話してみればよいのです。本当に大切なことは、外国の方の人柄を自分の目で見たり、実際に話してみたりすることです。国や人種は関係なく、人としての魅力を分かり合うためには、『心の壁』を取り払うことが必要です。まずは、『Hello.』の一言



県立大垣桜高校
まんが研究部

ハイ、チーズ!

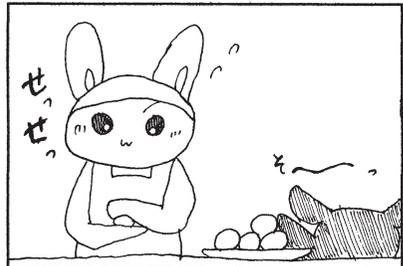
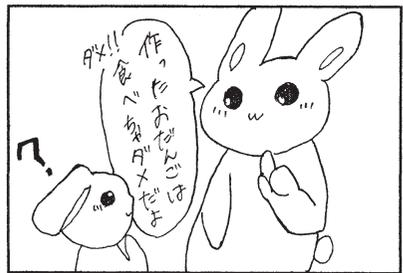


逆さ言葉

まさかさかさま
(まさか逆さま)

出題・浅野 莉子 (安八郡)

十五夜



逆さ言葉

おかしがすきすがしかお

(お菓子が好きスガシカオ)

出題・小木曾 栄央 (美濃加茂市)

教育の窓

算数って楽しい

岐阜市立網代小学校

中谷 基臣

四年生と六年生の算数の授業を担当と一緒にを行っています。(授業を二人の先生で行うことをチームティーチング(TT)と言います。) 次のような問題がありました。ほとんどの子が①と答えた中で一人だ

問題1

1辺の長さがxcmの正三角形のまわりの長さがycmのとき、xとyの関係を表式で表しましょう。

児童の解答

- ① $x \times 3 = y$
- ② $y \div 3 = x$

け②と答えました。どちらも正解であることを確認した後、「では、二つの違いは何でしょう」と聞いたところ、「1辺の長さが分かっているから、2辺の長さを求めるときは①を使い、まわりの長さが分かっているから1辺の長さがわからない時は②を使う。」と答えました。こんなに深く考えられることにびっくりしました。

役員さん、先生方に心より感謝申し上げます。

子の思い 親の願い 教育の窓

正直、弟の優しい口調で、「俺、何でも答えちゃうよ!」的な感じで言われると、私も「無いよ!」なんて平凡な返事をするのがしゃくで、「もちろん、あるわよ!」と、つい言ってしまいます。さあ、ここから私の頭がフル回転!まず給食のメニューから引き出し、今日の科目や係のことなど聞き出します。このように話ができるようになってからは、ある私の思いがきっかけでした。今まで帰りに道に今日あった話を話すようにしてきました。子どもは、よかったことはすんなり伝えてきます。しかし、我慢したようなことは、本人さえわからないままストレスになっていて、家でもイライラして、よく私ともぶつかっていました。そこで、なぜ我慢したか、一緒に考えるようにしました。何でも話すようにするには、毎日の繰り返しが大変だと思います。だから私も、毎日話を聞いてあげる行動は当然なのです。時々自分に余裕がなく、苛立つときもありますが、毎日の繰り返し

返しが自然と習慣になって、物事を色々な角度から見ることができるようになってくれたらなあと思います。夢を抱いたときに、仲間や環境も変化します。涙する時もあるでしょう。どんな時でも、物事をいろいろな角度から見ると、自分の弱さや人の思い、自分は愛されているという想いを感じ、もうひと頑張りできる子になってほしいです。

父の言葉

中津川市立神坂学校PTA会長 鈴木 永吾

岐阜県と長野県の境、中津川市の東端に位置する神坂馬籠地域の幼稚園と小学校、中学校の三つを一つにして「神坂学校」のPTAとしています。

私は中三の長男と中一の長女の二人の子どもの父親です。おかげさまで二人とも成長著しく、特に長男はつい最近私の背文を追い越しました。

毎日一緒に過ごしているのに案外気付かないものだなと驚いております。少しさみしい気もしますが、子どもたちが日々成長していくのはやはり嬉しいもので、体の成長はもちろん精神的にも大きく成長してくれればこれ以上の幸せはありません。さて私には他人に自慢できるようなこれといった教育方針はありませんが、一つだけ信念、と言えば大袈裟ですがそれに近いような考え方を大切だと思いい心に留めていることがあります。

「真っ直ぐ育ててやれ」

私の父の言葉です。子育てには口出ししない父でしたが、長男が小学校入学を控えた頃でしたから父なりに心配や不安があったのかもしれない。気を使ってくれたのでしょう。

言われた私は正直驚きました。父と私は言い争いやケンカは日常茶飯事で、男同士はこんなものだと思うので、まして親子で子育て論などあり得ない仲でしたので、この一言には本当に驚きました。まあ小難し

いことをくどくど言われるよりは解りやすいですし、少し照れますが心に響きました。父は四年前に他界しましたが、遺していった一言は子どもたちと過ごしていく上での指針となっています。ただ面と向かって子どもたちに「真っ直ぐ育ちなさい」とはなかなか言えるものではなく、そんな風に言えばきつと戸惑うでしょう。そこでまずは親が真っ直ぐになる努力をすることだと思えます。そして私たち大人が曲がることなく子どもたちを支えていけるようにする、それが私の思う「親の願い」です。

今思うと父の言葉は子どもたちの為だけでなく私にも向けられていたのかもしれない。

最後になりましたが、今年度PTA会長の役を任命されたことで多くの人たちと出会い、色々な話を聞くことができました。今までに無かった経験をさせていただいています。この場をお借りして神坂馬籠地域の皆様、神坂学校PTA保護者の皆様、

問題2

$\frac{3}{4}$ dlで $\frac{2}{5}$ m²の板をぬれるペンキがあります。このペンキ1dlでは、何m²の板をぬれるでしょう。

$$\text{式 } \frac{2}{5} \div \frac{3}{4}$$

次のような問題がありました。児童の解答はほとんどが下のようでした。そこで黒板の端にこう書きました。(おととい2L・きのう6L・きょう4L) 児童はすく、きのうは三倍、きょうは二倍と答えました。そこで、きのうときょうの量をおとといの量

Society5.0時代に向けて

 羽島市立中島中学校

校長 小島孝則

で割ればよいということに気づき、問題を解くことができました。そして比べる量と、もとにする量、割合の関係をもう一度確認しました。一人の児童が「半端ない量だなあ」とつぶやいていましたので、「いいつつこみだ」とほめました。一日で六リットルも飲めないとすぐ気づくことに感心しました。

算数の学習をしていると子どもたちからいろいろな考え方や答え(多様な考え)が出てきて、いつもとても楽しい時間を過ごしています。

おととい... $\frac{2}{3}L$
 きょう... $\frac{5}{4}L$
 きょう... $\frac{2}{5}L$

問題3
 たくとさんの家では、ジュースを3日間で右のように飲みました。
 きょう飲んだ量と、きょう飲んだ量は、それぞれおととい飲んだ量の何倍でしょう。

児童の解答
 きょう $\frac{2}{3} \div \frac{5}{4}$ きょう $\frac{2}{3} \div \frac{2}{5}$

先日、本校の家庭教育学級において「Society5.0時代の子育て」というタイトルで講話をさせていただきました。大げさなタイトルにしてしまったことを少し後悔しつつも、これからの時代の子育てについて、参加してくださった保護者の皆様と一緒に楽しく考えることができました。

「これからの世の中は大きく変化していく」とよく言われますが、それは今に始まったことではなく、私たち大人が生きてきた昭和・平成の時代も変化が激しい時代でした。高速道路や新幹線などの交通インフラが整備され、街の中には高層ビルや巨大な商業施設などがあちこちで建設されました。家庭の中でも電化製品があふれ、パソコンやタブレット、スマートフォンが日々欠かせないものとなり、

私たちの生活は目に見える形で変わってきました。これからの時代は、AIやロボットが普通に家の中に入ってきます。IoTで様々なモノがインターネットとつながっていきます。インベーションによって生活がどんどん便利になり、新たな価値観や人としての可能性が広がるのがSociety5.0時代です。

一方で、今ある職業のうち半分近くが消えていくと言われたり、人生一〇〇年時代に伴って老後の生活にたいへんなお金がかかる心配されたりしています。先行きが不透明で、世の中の変化を予測することが難しい時代であるとも言われています。だとすれば、この先の世の中がどのように変わっていくとも、「社会の変化に対応できる力」自分で考え、判断し、行動する力」子どもたちに身につけさせることが私たち大人の務めです。

会の中で求められました。指示されたことを正確に迅速にこなす力が求められました。しかし、子どもたちが生きて行くこれからの世の中では、そうした力が求められることはほとんどありません。子どもたちは私たちが生きてきた時代とは異なる時代を生きていくのです。もちろん、いつの時代にあっても人として大切にしなければいけない価値観や考え方はあります。いわゆる不易なるものは尊重しながら、今まで当たり前としてきたことがこれからは当たり前であるのかどうかという視点はもつべきです。

これからの時代を生き抜く子どもたちのために、私たち大人自身が社会の変化に対応する力を身につけなければなりません。学校での教育も家庭での子育ても、常にアップデートを続ける必要があると思います。



女子柔道部・新井千鶴



女子陸上競技部・田邊美咲



トライアスロン部・古谷純平



パラアスリート・道下美里

いつもの練習。ただ繰り返す。
 今日も、明日も。
 1本でも多く、投げたか?走ったか?
 昨日の自分より、強くなったか?
 ゴールは向こうからは、やってこない。
 だから近づく。一步一步。

挑戦は、美しい。

立ちどまらない保険。
MS&AD 三井住友海上

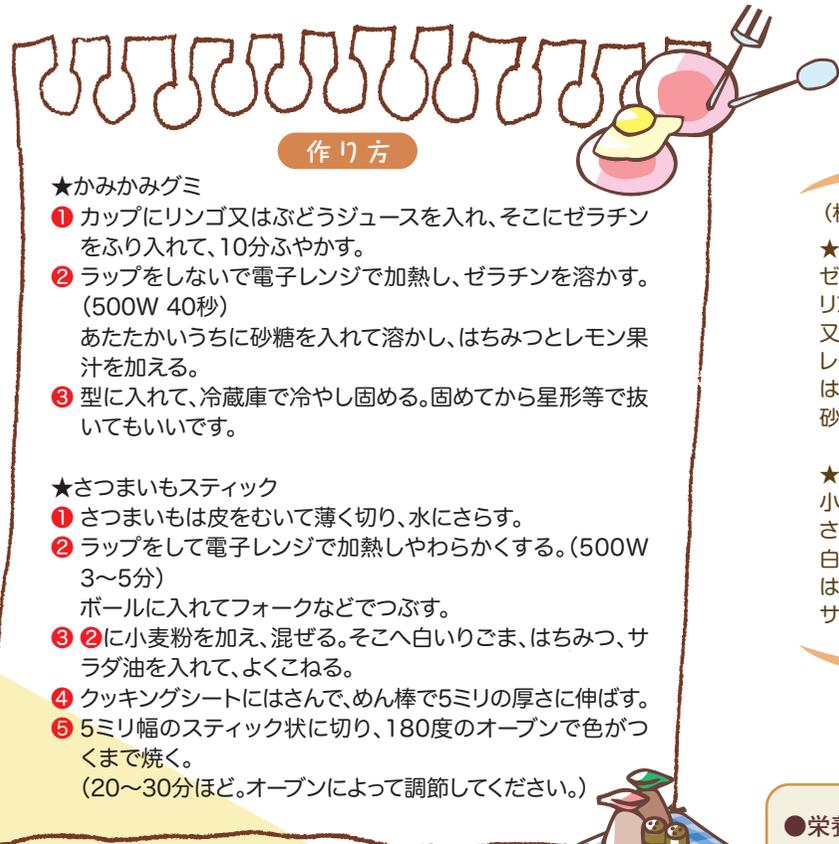
かみかみグミとさつまいもスティック

岐阜県学校栄養士会

岐阜県学校栄養士会

よくかんで食べることは、歯を丈夫にして、健康によいことがたくさんあります。健康に長生きするためにも、小さい頃からよくかんで食べる習慣が大切です。

学校給食では、子どもたちが意識してよくかんで食べることができるよう、かみごたえのある料理を出しています。また可茂地区栄養教諭学校栄養職員部会では、よくかんで食べる給食の人気メニューや、簡単に手作りでできる歯によいおやつ等を「かみかみレシピ集」として作成し、学校図書館などで貸し出しをして、家庭への啓発を図っています。今回紹介した「かみかみグミ」と「さつまいもスティック」は、かみごたえがあり、さつまいもやはちみつなどの自然の甘みを活かしているため、砂糖を使うこともなく歯に良いおやつです。是非、作ってみてください。



作り方

★かみかみグミ

- 1 カップにリンゴ又はぶどうジュースを入れ、そこにゼラチンを振り入れて、10分ふやかす。
- 2 ラップをしなくて電子レンジで加熱し、ゼラチンを溶かす。(500W 40秒)
あたたかいうちに砂糖を入れて溶かし、はちみつとレモン果汁を加える。
- 3 型に入れて、冷蔵庫で冷やし固める。固めてから星形等で抜いてもいいです。

★さつまいもスティック

- 1 さつまいもは皮をむいて薄切り、水にさらす。
- 2 ラップをして電子レンジで加熱しやわらかくする。(500W 3~5分)
ボールに入れてフォークなどでつぶす。
- 3 ②に小麦粉を加え、混ぜる。そこへ白いりごま、はちみつ、サラダ油を入れて、よくこねる。
- 4 クッキングシートにはさんで、めん棒で5ミリの厚さに伸ばす。
- 5 5ミリ幅のスティック状に切り、180度のオーブンで色がつくまで焼く。
(20~30分ほど。オーブンによって調節してください。)

材料

(材料4人分)

★かみかみグミ

- ゼラチン……………15g
- リンゴジュース
又はぶどうジュース……………100cc
- レモン果汁……………大さじ2/3
- はちみつ……………大さじ1と1/2
- 砂糖……………大さじ1

★さつまいもスティック

- 小麦粉(薄力粉)……………100g
- さつまいも(皮をむいて)……………150g
- 白いりごま……………大さじ1
- はちみつ……………大さじ2
- サラダ油……………大さじ3

●栄養価 (1人あたり)

	かみかみ グミ	さつまいも スティック
エネルギー(kcal)	57	271
たんぱく質(g)	3.4	3.4
脂質(g)	0	11.7
カルシウム(mg)	2	0
鉄(mg)	0.2	0.6
亜鉛(mg)	0.1	0.5
ビタミンA(μgRE)	0	1
ビタミンB ₁ (mg)	0	0.12
ビタミンB ₂ (mg)	0	0.04
ビタミンC(mg)	2	11
食物せんい(g)	0	1.9
塩分相当量(g)	0	0



最高のサポーター

大藪小学校には生活の3本柱として、『挨拶をする』『時間を守る』『掃除』があります。

子ども達は挨拶運動・2分前行動の呼びかけ・美化運動を展開しています。それらは先生から指示を受けてから動くのではなく、子ども達がアイデアを出し合って、先生方は活動のサポートに徹しているそうです。

校長先生にお聞きしたのですが、子ども達と先生の距離が非常に近いようで、休み時間に子ども達と先生と一緒に遊ぶ姿がよく見られるそうです。働き方改革が叫ばれる昨今、先生方も例外ではありません。その様な忙しい日々の中でも、子ども達と触れ合う時間を大切にしている姿勢には本当に頭が下がる思いです。

先生方は子ども達の陰になり日向になり日々見守ってくれています。大藪小学校が子ども達の『もっと良い学校にしよう』という思いと、それを見守る先生方の思いでこれからも良い学校であり続ける事を願います。

山田 将司・大藪小学校PTA

先生! ありがとう!

小学校に入学したころは、はずかしがり屋で自分から前へ出る子ではありませんでした。

二年生のころ、鉄棒で逆上がりができなくて、休み時間にお友達に教えてもらいながら練習していました。先生も毎日一緒に練習を見てくださり、とうとう逆上がりができる時、努力してできた達成感を味わったのだと思います。先生が、授業参観の時に私のそばに来てくださり、二人で一緒に喜んだのを今でも覚えています。

先生に頑張った事をほめてもらい、そして、頑張った事が結果にあらわれたことで、少しずつ自信につながったのだと思います。

今では、いろんな事を積極的に行動できる子に成長してくれました。

子どもを温かく見守ってくださったことに感謝しております。

匿名

《メッセージ随時受付中》

私たちは「言葉」でつながっています。PTAと学校、保護者と先生の信頼関係を深くし、子どもたちを健全に育てるために、先生に感謝のメッセージを贈ります。この気持ちは子どもに伝わり、やがて子どもたちも同様の気持ちを持ってくれると信じます。400字以内のメッセージ(書式自由・ハガキも可)に住所、氏名をご記入のうえ、「末尾に氏名又はペンネーム又は匿名希望」で右記へお送りください。

〒500-8816

岐阜市菅原町3-3 岐阜県校長会館内
岐阜県PTA連合会「わが子のあゆみ」編集部
「400字メッセージ係」

FAX 058(262)3259

Eメール info@g-pta.com

先生! ありがとう!
保護者から先生へ贈る感謝の四〇〇字メッセージ

本校は、関市の南部に位置し、創立三十四年目の比較的新しい学校です。児童数百四名の小規模校ですが、校区内には大学、高校、特別支援学校、保育園・幼稚園など教育施設が多くあるのが特徴です。また、地域唯一の小学校ということで、地域からの期待度は大きく、自治会をはじめ長寿会などから教育活動の様々な面で協力が得られる学校です。そこで、地域の方々と交流を図り、地域から学ぶ機会を積極的に位置付けることで、人と関わり合いながら学ぶ力、粘り強くやり抜く力、物事を多面的に見る力を育てようと、学校の教育目標「すすんで取り組みやりぬく子」の具現を目指しています。

本校の研究主題は「探究的な見方・考え方を働かせながら学ぶ児童の育成」生活科・総合的な学習の時間」であり、生活科や総合的な学習の時間を通しての「ふるさと学習」に六年間取り組んできました。

例えば三年生では、「地域・私たちの町のすてき発見」をテーマとし、地域の公園での花壇づくりやゴミ拾い、登下校の見守りなどのボランティアを長年続けてみえる方の生き方を学び、自分も地域の一員として、地域に貢献していくという意識を高める学習をしています。

また、五年生では、長寿会の皆様からの協力を得て、米作りに取り組んでいます。五月の籾撒きから、田植え・稲刈り脱穀までの活動に、毎回多くの方にボランティアとして

集まっていたいただき、子どもたちは働くことの尊さを実感するとともに、そうした作業に取り組まれる方への感謝や尊敬の気持ちを育んでいます。また、足踏み脱穀機など、昔ながらの方法で農作業することで、社会科で学習した機械化された農業との違いを体感し、十二月には長寿会の方々と共に収穫の喜びを味わう交流会も行っています。

また、地域の方との交流活動の一環として、年に二回地域清掃を行っています。一斉下校してから地域の公園や通学路の清掃活動を行った後、地域の方々にお礼の手紙を書き、感謝の気持ちを表すことで、地域ぐるみの活動として継続されています。

地域内の校区間交流として、一・二年生では、保育園や幼稚園の園児を招いて、生活科の学習で作った自然のものを利用した遊びやゲームで遊ぶ機会を設けています。また、中濃特別支援学校との交流として、レクリエーション、合唱発表会などをして心をつなぐ温かい活動を続けてきました。秋には、中部学院大学主催の「たのしみん祭」に学校として参加し、児童はダンスを披露し、PTAは「バザー」の活動を行っています。

これからも、地域とのつながりを大切にして、生きる力を育てる共生学校づくりを通して、地域を愛し地域に貢献できる人材の育成に力を注いでいきたいと思います。



▲地域の方を招待して、総合的な学習の時間の発表をする3年生の児童たち



▲中濃特別支援学校との交流会に参加した1・2年生の児童たち



▲中部学院大学主催の「たのしみん祭」でダンスを披露する児童たち



▲地域清掃で汗を流す児童たちと地域の皆さん



▲昔ながらの「足踏み脱穀機」を体験した5年生児童たちと長寿会の皆さん



▲5年生 稲刈り体験で、はさかけをする児童たち

地域とのつながりを大切に活動を通して生きる力を育む



プール掃除の前に
ヤゴを救出(6年)



クラブ活動で地域講師から学ぶ(4~6年)「ちりめん細工クラブ」



下羽栗校区巡り(6年)



笠松町立下羽栗小学校は、笠松町の東端に位置し、全校児童三三二名の学校です。町内には、歴史と伝統と自然を感じる場所が数多くあり、子どもたちは、それらに囲まれ、地域の皆様に支えられながら、のびのびと育っています。



トンボ池へヤゴを放流「大きなあれ」(3年)



クラブ活動で地域講師から学ぶ(4~6年)「茶道クラブ」



かがやき集会での
手遊び歌
(集会委員会)

かがやき集会



「みなさん、こんにちは〜!」という集会委員の快活な挨拶から始まるかがやき集会は、全校児童が美しい音楽や歌遊びによる表現を味わい楽しむ場となっています。月一回程度の開催で、毎回、学年によるメインの発表が行われます。「集いの歌」では、教師がワンポイントアドバイスをし、さらによりよい全校合唱をつくりあげていきます。「歌遊び」では、集会委員会の児童がお手本となり、全校児童が歌遊びを楽しんでいます。各学年は、主に国語と音楽の学習の成果を工夫して発表しています。学年発表を見た子どもたちは「歌声が響いてよかったです。」「セリフに気持ちがかもってて素晴らしいです。」などと感想を交流しています。

かがやき集会での学年発表
(各学年、年間1回)



鼓笛隊
運動会へ向けての
練習風景(5・6年)



木曾川でEボート体験
(5年、笠松みなと公園)



運動会での
鼓笛隊発表
(5・6年)



笠松競馬場のゲートで出走体験(4年)

伝統を引き継ぎ
発展させる

本校の伝統となっている「鼓笛隊活動」は、昭和三十八年から始まり、父母だけでなく祖父父母も行ってきた活動です。昭和四十年の岐阜国体の歓迎行事の一環として計画されたのがスタートで、以来五十六年間、脈々と伝統を受け継いできました。これまで、行政の支援や地域の方々からの寄付により、楽器やユニフォームが整えられてきました。現在では、五月の運動会と、十月に開催される笠松町の「リバーサイドカーニバル」で、五・六年生が発表しています。十月からは、四年生の楽器オーデイションが複数回行われ、二月の引き継ぎ式では、六年生が、鼓笛に対する思いを語って引き継いでいきます。

陸上部



陸上部は、総勢31名で活動しています。種目はそれぞれ異なりますが、少しでもよい記録を目指し、日々練習に励んでいます。個人種目ですが、互いに切磋琢磨し、声をかけ合いながら、全員が力を伸ばしていけるよう取り組んでいます。また、陸上を通して人としても成長していけるように努めています。

バドミントン部



バドミントン部は、総勢60名ほどで活動しています。『アベック優勝』という目標に向かって、日々練習に励んでいます。練習の多くは、走り込みや体幹トレーニングを何セットも繰り返すというものですが、苦しい練習であっても、目標達成のためにみんなで声をかけ合って頑張っています。

野球部



野球部は総勢50名で活動しています。“全力疾走”を合言葉として、県大会優勝を目指し、チーム一丸となって日々練習を重ねています。野球の技術面だけでなく、あいさつや礼儀、何事にも感謝の気持ちを持つなどの行動面も重視して活動をしています。野球を通して、人として成長ができるよう頑張っています。

美術部



80名ほどの大所帯で活動しています。作品展やコンクールへの出展を目標にしています。昨年度から加茂高校美術部とのコラボ企画も行っています。油絵や陶芸、写真など、より専門的な活動ができるようになってきました。未来のアーティストが生まれてくれることを期待します!

吹奏楽部



吹奏楽部は、約60名で活動しています。一人ひとりが美しい音を奏で、仲間と共に華やかな音楽を創り上げることを目指し、日々練習に取り組んでいます。また、技術面だけではなく、生活面や仲間関係も大切にし、部活動を通して成長することを目指しています。

サッカー部



今年度は30名ほどの部員で活動しています。県大会出場を目標に、練習から本気で日々練習に取り組んでいます。時間を守ることや、あいさつをすることなど、サッカー以外にも人として大切にしていきたいことも部の全員で意識しています。部活動を通して、人として成長していけるよう努力していきます。

柔道部



柔道部は10名ほどの部員で活動しています。平日は体力づくりや基礎的な動きの練習をし、土曜日には外部指導者に来ていただいて、実践的な動きを練習しています。楽しく明るい雰囲気大切にしつつも、けがのないように真剣に取り組んでいます。今年度は個人・団体とも県大会で1つでも多く勝つことを目標にしています。

女子バレー部



女子バレー部は30名ほどの部員で活動しています。「限界突破」を合言葉に、県大会出場を目標に日々の練習に取り組んでいます。また、あいさつや時間行動、礼儀なども大切にしています。仲間と共に声を掛け合いながら、バレーを通して成長していきます。

男子バレー部



男子バレーボール部は、約17名で活動しています。県大会出場を目標に練習から本気で取り組んでいます。どんな時でも声を出して、盛り上げることやあいさつをすることなど、バレー以外にも生活面や仲間関係を大切にしています。

ソフトボール部



15人という少人数での活動をしています。ソフトボールに対する熱意、指導して下さる保護者や指導者の皆さんへの感謝の気持ちを自分のプレーの姿で現すことを大切に取り組んでいます。個々の成長を全員で確かめ合いながら、一歩ずつ上を目指し、歩んでいきます。

女子バスケットボール部



女子バスケットボール部は、「戮力協心」という言葉を胸に、1つでも多く勝つために日々練習に取り組んでいます。私たちはとても明るく、仲の良いチームです。つらい練習もありますが、仲間で声をかけあって、わきあいあいと練習しています。最後まで集中し続けること、声を出し合うことをさらに高めていきたいです。

男子バスケットボール部



男子バスケットボール部は、地区大会優勝、県大会出場を目標に、日々苦しい練習に耐えながら努力しています。コートの中には5人しか入ることができませんが、チームが一丸となって勝利を目指しています。1つでも多くの勝利を大切な仲間たちと分かち合うために、これからも毎日の練習を本気で取り組んでいきます。

剣道部



剣道部は男子9名女子7名の16名で活動しています。県大会出場を目標に、精一杯声を出して稽古に取り組んでいます。先輩後輩の仲が良く、学年を越えて教え合うことで技術が向上し、絆が深まっていきます。また、礼儀や時間行動も大切にし、人としても成長することを目指しています。

技術家庭部 家庭コース



家庭コースは総勢40名で活動しています。“まずはやってみる”を合言葉として、各コンクール入賞を目指し、日々練習を重ねています。裁縫や調理の技術向上だけでなく、どんな形になるかを考えながら製作することや、失敗したら繰り返し挑戦することにこだわっています。また、製作の中で教え合う姿や、認め合う姿を大切にしているのでアットホームな雰囲気です。

技術家庭部 技術コース



3年前に技術部としてスタートし、今年度から家庭科も活動に取り入れ新たにスタートしました。毎年10月に行われる「ものづくりフェア」に向けて、ロボコンテスト・お弁当コンクール・ハーフパンツコンテストのそれぞれの部門で、技を磨いています。

女子ソフトテニス部



今年度は県大会出場を目標に掲げ、約40名で活動しています。基礎練習を大切にする、自分から挨拶をする、周りを見て気付き、日常生活を大切にするなど、小さなことからコツコツと積み上げています。強いチーム、選手になるために技術はもちろん、礼儀や社会性を身に付け、誰からも応援されるような姿を目指しています。

男子ソフトテニス部



総勢50名弱で、平日、休日問わず、朝早くから登校して仲間と切磋琢磨しながら、楽しくテニスをしています。そして、「一球入魂」を合言葉にして日々の練習に励んでいます。この「一球入魂」という言葉には、練習で打つ一球一球に心を込め、試合で練習の成果が発揮できるようにという願いが込められています。

卓球部



挑勝(ちょうじょう)。これが私たち卓球部34名の合言葉です。この言葉には、勝利を目指し、頂上に向けて全員で挑み続けていくという意味が込められています。相手に勝つこと、自分に勝つこと、それが私たちの目指すところです。そのために、全員で礼を大切にし、声をかけ合いながら卓球の技術の向上に努めています。

私たちのPTA

養正小学校の正門



読み聞かせ活動



月一回、朝読書の時間に地域の方や育友会員が各教室に行って読み聞かせを行っています。読み聞かせの募集や、担当学級決め等を家庭教育委員会が行います。

まんぷくでまんぞくの会



昨年度、家庭教育委員会主催で行われた会です。外国人のお母さんが自国の料理を紹介し、腕を振って下さいました。30名近くの保護者が参加していろいろな国の料理に舌鼓を打ちました。

あいさつ運動



朝のあいさつ運動の様子です。この日は近くの高校生も一緒に参加して、登校してくる児童に声をかけてくれました。

絆コンサート



器楽クラブOB、幼稚園、当校器楽金管クラブのジョイントコンサートが2月に行われます。地域の人にも声をかけ、全校で鑑賞します。受付や会場設営等を、器楽金管クラブの保護者会、家庭教育委員会が行います。

こいのぼり集会



5月中旬、中庭の芝生でこいのぼり集会が行われました。2年生が1年生に新聞紙で作った兜をプレゼントして、一緒に「こいのぼり」を高らかに歌いました。このこいのぼりを北舎から南舎へかける大仕事を「おやじの会」が引き受けます。

親子奉仕作業



11月の資源回収後に親子で学校を美しくします。道具の準備や、当日の進行が保健環境部の仕事です。

戦闘中



おやじの会主催の夏休みの一大イベント。昨年度は「戦闘中」を実施しました。肩につけたボイメがけて水鉄砲を打ちまくります。暑い夏の楽しいひと時でした。

学校紹介

養正小学校は全校児童三八一名の学校です。明治六年創設、今年で一四七年目を迎えます。地域は伝統を尊重する気風が強く、また学校への関心も非常に高く協力的です。本校は「五する運動」を合言葉に「あいさつする子」「読書する子」「歯みがきする子」「運動する子」「整美する子」の育成を目指しています。子ども達は、掃除やなかよし遊びなどの縦割り活動を通して、異学年同士の温かい関係を育んでいます。在学児童の関係者以外にも愛される学校、それが養正小学校です。秋の運動会や鼓笛パレードなどでは、子どもや孫が在学していないくても毎年楽しみに見に来る方があります。また二月には、当校器楽金管クラブと附属幼稚園、さらには当校OBからなる「KIZUNA養正クラブ」とのジョイントコンサートが開催され、地域の皆さんとともに楽しんでいます。

養正小育友会と今年度のスローガン

本校のPTAを「養正小学校育友会」と呼びます。「あいさつ運動」や「読み聞かせ」「資源回収」「奉仕作業」など、様々な活動で学校教育を支えています。今年度の育友会のスローガンは、「One for all, all for one」です。大人一人ひとりが少しずつ力を出し合い子どもを支える。その大人の背中を見て子ども達は一回りも二回りも成長し、自分に自信を付けて巣立っていく。私達は、そんな子ども達の姿に、自分の小学校の思い出を重ね合わせながら、改めて様々なことに気づき教えられる大人でありたいと思います。

各委員会の活動

本校の育友会は常任委員、運営委員合わせて二十四名で全体を総括しています。

各委員会の活動に参加するとともに、独自の活動や学校行事への協力をしています。各委員会の主な活動を紹介します。

○家庭教育委員会(十一名)

- ・朝の読み聞かせ活動・絆コンサートの補助
- ・文化教養活動(昨年度は「まんぷくでまんぞくの会」を開催)

○保健環境部(十三名)

- ・歯磨きカレンダーの作成、発行・給食試食会と食育講座・親子奉仕活動

○広報部(十四名)

- ・広報誌の作成 発行(年三回)・育友会HP管理・パソコン教室開催

○校外生活指導部

- ・資源回収(年四回)・あいさつ運動(年三回)・地区責任者会議(年三回)

本校には「おやじの会代表」「器楽金管クラブ代表」という独特な役職があります。「おやじの会」は、夏の一大イベントの企画運営(平成三十年度は「戦闘中」)、学年行事「こいのぼり集会」の支援等を行います。「器楽金管クラブ」は四年生以上の音楽好きが集まって二月の絆コンサートに向けて年間を通じて放課後に練習をします。その際に、クラブ保護者が見守り当番で支援しています。

おわりに

養正小学校には、学校を地域やOB、保護者がみんなで見守るそんな魅力があります。これからも皆さんの「養正愛」に支えられながら、子ども達とともに養正小学校育友会も成長していきたいと思います。

がんばる子らの 汗と笑顔と眼差しと



アゴラ教室を活用した学習

主体的・対話的で深い学びを促す「アゴラ教室」が整備されました。台形テーブルの組合せで自由度の高いグループ編成をしたり、考えを付箋に書いてホワイトボードに貼り、立場を明確にしながらい見交流したりするなど、空間を活かした指導法で活用しています。



車いす・アイマスク体験

総合的な学習の時間では、地域から世界へ視野を広げながら「ふるさと学習」を進めます。5年生は社会福祉協議会の方を講師に「車いす・アイマスク体験」を行いました。今後も学習を重ね、老人デイサービスセンターの方々との交流につなげます。



雑紙回収への協力

今年度より毎月第3火曜日を「資源分別回収の日」として、各家庭で集めた雑紙を子どもたちが持って登校してきます。学校では児童ボランティアや自治会役員さんなどで回収します。これらの取組を通して、リサイクルや環境保護活動に協力しています。



子どもフェスティバル

地域の方々やPTAのみなさんに支えていただき、子どもたちの笑顔が広がりました。恒例の「もちつきコーナー」には、子どもたちの長い行列ができ、おやじの会の方と餅をついたり、できたての「きな粉餅」をおいしそうに食べたりしていました。



ふるさとふれあい活動 3年 竹ばし作り(左)、6年 地域の防災活動(右)

「ふるさとふれあい活動」は、地域の方々とふれ合いながら一緒に活動することで、子どもたちが自分も地域の一員である意識や郷土を愛する心を育むこと、仲間など相手を思いやり進んで行動できる力を育てることを目指して20年以上も続く行事です。3年生は、役員さんが鷺山から切り出してくださった竹を使って「竹ばし作り」に挑戦しました。6年生は、消防団・水防団・赤十字奉仕団の方々を講師に招いて、地域の防災活動について体験的に学びました。これらの活動により「岐阜県ふるさと教育表彰」を受賞しました。

